

FMV

DESKPOWER

L70G/F,L70G,L50G,
L70GN,L50GN

B6FH-0641-01

1

番目に読む本

パソコンの準備

パソコンの電源を入れる前にお読みください。
接続方法や、必要な準備について説明します。

- 1 各部名称
- 2 始める前に
- 3 接続する
- 4 パソコンの準備をする
- 5 接続 / 設定する
- 6 仕様

FUJITSU

表紙をめくるとマニュアルの
読み方があります。



Step1

まずは、 『パソコンの準備』

添付品の確認やケーブルの接続を済ませたら電源を入れて、
パソコンを使える状態にします。
みんな、この本の通りにやれば大丈夫！
手順を一つ一ついねいに説明しています。



Step2

次は、 『使いはじめガイド』第1章

「1章 FMV を使いはじめる前に知っておこう」では、
FMV を使うために、とても重要なことを説明しています。
FMVならではの機能や、気になるセキュリティ対策はこ
こをチェックしましょう！

そして 『使いはじめガイド』第2章

「ついてきたマニュアルの本が少ないな...本当にこれで
わかるの？」

そんな心配を吹き飛ばすのがこの「第2章 マニュアルや
サポートを使いこなそう」です。

マニュアルは、実は「本」だけではないんですよ！

ここを読めば、FMV のマニュアル活用術はバッチリです。



FMV を使いはじめるには、まずここまで読みましょう！
後は、やりたいことや、必要に応じて見ていけば大丈夫！！

『パソコンの準備』の内容

必ずお読みください

まず機種名や添付品の確認をします
第2章 パソコンを使い始める前に (●▶P.21)



必要な機器を接続します
第3章 接続する (●▶P.27)



電源を入れてパソコンを使う準備をします
第4章 電源を入れてパソコンの準備をする
1 初めて電源を入れる (●▶P.32)

目的に合わせてお読みください

- プリンタやメモリなどの周辺機器を取り付けたい (●▶P.68)
- ホームサーバー機能を使いたい (●▶P.76)
- ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスの
通信周波数／ID 設定値を変更したい (●▶P.81)
- テレビを見たい (●▶P.90)
- 仕様を確認したい (●▶P.98)

安全にお使いいただくために

このマニュアルには、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。

また、このマニュアルは、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

保証書について

- ・保証書は、必ず必要事項を記入し、内容をよくお読みください。その後、大切に保管してください。
- ・修理を依頼される場合には、必ず保証書をご用意ください。
- ・保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無料で修理いたします。
- ・保証期間内でも、保証書の提示がない場合や、天災あるいは無理な使用による故障の場合などには、有料での修理となります。ご注意ください（詳しくは、保証書をご覧ください）。
- ・修理後は、パソコンの内容が修理前とは異なり、ご購入時の状態や、何も入っていない状態になっている場合があります。大切なデータは、フロッピーディスクやCD-Rなどの媒体に複写して、保管しておいてください。
- ・本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造終了後6年間です。

使用許諾契約書

富士通株式会社（以下弊社といいます）では、本製品にインストール、もしくは添付されているソフトウェア（以下本ソフトウェアといいます）をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを使用の条件とさせていただきます。

なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただきますようお願い申し上げます。ただし、本ソフトウェアのうちの一部ソフトウェアが別途の「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が、添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。

ソフトウェアの使用条件

- 1. 本ソフトウェアの使用および著作権**
お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において本製品でのみ使用できます。なお、お客様は本製品のご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属するものとします。
- 2. バックアップ**
お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1部の予備用（バックアップ）媒体を作成することができます。
- 3. 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み**
本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。
- 4. 複製**
 - (1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2.」および「3.」の場合に限定されるものとします。
本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用（バックアップ）媒体以外には複製は行わないでください。
ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。
 - (2) 前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないで行ってください。
- 5. 第三者への譲渡**
お客様が本ソフトウェア（本製品に添付されている媒体、マニュアルならびに予備用バックアップ媒体を含みます）を第三者へ譲渡する場合には、本ソフトウェアがインストールされたパソコンとともに本ソフトウェアのすべてを譲渡することとします。なお、お客様は、本製品に添付されている媒体を本製品とは別に第三者へ譲渡することはできません。
- 6. 改造等**
お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをともなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。
- 7. 壁紙の使用条件**
お客様は、「FMV」ロゴ入りの壁紙を改変したり、第三者へ配布することはできません。
- 8. 保証の範囲**
 - (1) 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本製品をご購入いただいた日から90日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して弊社が必要と判断した情報を提供いたします。
また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥（破損等）等がある場合、本製品をご購入いただいた日から1ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。
 - (2) 弊社は、前号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします）に関しても、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。
 - (3) 本ソフトウェアが第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記（1）の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。
- 9. ハイセイフティ**
本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的な用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本ソフトウェアを使用しないものとします。ハイセイフティ用途とは、下記の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。
記
原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など

富士通株式会社

マイクロソフト製品サービスパック

Microsoft® Windows® をご利用のお客様がより安定したシステムを運用していく上で、マイクロソフト社はサービスパックを提供しております（<http://www.microsoft.com/japan/>）。

お客様は、最新のサービスパックをご利用いただくことにより、その時点でマイクロソフト社が提供する Microsoft® Windows® にて最も安定したシステムを構築できます。

したがって、当社としては、最新のサービスパックをご利用いただくことを基本的には推奨いたします。




ただし、お客様の環境によっては、サービスパック適用により予期せぬ不具合が発生する場合がありますので、ご利用前にはサービスパックの Readme.txt を必ずご確認ください。

また、万一、インストールに失敗したことを考慮し、システムのバックアップを取ることを推奨いたします。




このマニュアルの表記について

安全にお使いいただくための絵記号について

このマニュアルでは、いろいろな絵表示を使用しています。これは本製品を安全に正しく使用していただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

 危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する、または重傷を負う危険があることを示しています。
 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の表示と同時に次のような記号を使っています。







	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、画面およびイラストが若干異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

本文中の記号について

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
	参照先を記述しています。
	ご覧になっていただきたいマニュアルを記述しています。
	サービスアシスタントを表しています。次のいずれかの操作で起動できます。 ・キーボードの「Support」ボタンを押す ・「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「富士通サービスアシスタント (マニュアル&サポート)」→「富士通サービスアシスタント」の順にクリック
	CD-ROM / DVD-ROM を表しています。

製品などの呼び方について

このマニュアルでは製品名称などを、次のように略して表記しています。

正式名称	このマニュアルでの表記	
Microsoft® Windows® XP Home Edition	Windows XP Home Edition	Windows
Microsoft® Windows® XP Professional	Windows XP Professional	
Microsoft® Office Personal Edition 2003	Office Personal 2003	
情報処理機器の省エネルギー化推進に関する法律	省エネ法	
スーパーマルチドライブ	CD/DVD ドライブ	
MPEG2リアルタイムエンコーダ付きTVチューナーカード	ハードエンコーダ付き TV チューナーカード	
高画質化機能&MPEG2リアルタイムエンコーダ付きTVチューナーカード	高画質ハードエンコーダ付き TV チューナーカード	
富士通サービスアシスタント V2.3	サービスアシスタント	
Norton Internet Security™ 2004	Norton Internet Security	

警告ラベル／注意ラベル

本製品には警告ラベルおよび注意ラベルが貼ってあります。

警告ラベルや注意ラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

商標および著作権について

Microsoft および Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の登録商標または商標です。Celeron は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の登録商標または商標です。Motive のロゴ、Motive Communications, Inc., ServiceNet Platform および Motive の他の製品名あるいは技術用語は Motive Communications, Inc. の商標または登録商標です。

Bluetooth は、Bluetooth SIG の商標であり、弊社へライセンスされています。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2004

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

データのバックアップについて

本製品に記録されたデータ（基本ソフト、アプリケーションソフトも含む）の保全については、お客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。修理を依頼される場合も、データの保全については保証されませんので、事前にお客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。
データが失われた場合でも、保証書の記載事項以外は、弊社ではいかなる理由においても、それに伴う損害やデータの保全・修復などの責任を一切負いかねますのでご了承ください。

添付の CD-ROM/DVD-ROM などは大切に保管してください

これらのディスクは、本製品に入っているソフトウェアをご購入時と同じ状態に戻すときに必要です。

液晶ディスプレイの特性について

- ・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります。これらは故障ではありません。交換・返品はお受けいたしかねますのであらかじめご了承ください。
- ・本製品で使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
- ・長時間同じ表示を続けると残像となることがありますが、故障ではありません。残像は、しばらく経つと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
- ・表示する条件によっては、むらおよび微少な斑点が目立つことがありますが、故障ではありません。

アナログ放送からデジタル放送への移行について

地上デジタル放送は、関東、中京、近畿の三大広域圏の一部で2003年12月から開始され、その他の地域でも、2006年末までに放送が開始される予定です。該当地域における受信可能エリアは、当初限定されていますが、順次拡大される予定です。地上アナログ放送は2011年7月に、BSアナログ放送は2011年までに終了することが、国の方針として決定されています。

本製品のハイセーフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用などの一般的な用途を想定したものであり、ハイセーフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。

お客様は、当該ハイセーフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。

ハイセーフティ用途とは、以下の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

- ・原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など

注意

本製品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。本製品は、家庭環境で使用することを目的としていますが、本製品がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。本製品は、マニュアルに従って正しい取り扱いをしてください。

本製品には、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスクなど）が含まれており、長時間連続で画面を表示させたり動作させたりした場合、早期の部品交換が必要になります。

本製品の使用環境は、温度10～35℃/湿度20～80%RH（動作時）、温度-10～60℃/湿度20～90%RH（非動作時）です（ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）。

本製品は、国内での使用を前提に作られています。海外での使用につきましては、お客様の責任で行っていただくようお願いいたします。

本製品は、日本国内での無線規格に準拠し、認定を取得しています。日本国内でのみお使いいただけます。また、海外でご使用になると罰せられることがあります。

ワイヤレス LAN 搭載モデルの場合（IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠の場合）

本製品の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

1. 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、下記の連絡先にご連絡頂き、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
3. その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」

パソコン本体と通信相手の機器との通信距離は、見通し半径25m以内（ワイヤレス通信の推奨値）となります。ただし、ワイヤレス LAN の特性上、ご利用になる建物の構造や材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、電波状況等の使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度が低下したり通信不能となる場合もあります。

IEEE 802.11g 準拠と IEEE 802.11b 準拠の混在環境においては、IEEE 802.11g 準拠は IEEE 802.11b 準拠との互換性をとるため、IEEE 802.11g 準拠本来の性能が出ない場合があります。IEEE 802.11g 準拠本来の性能が必要な場合は、IEEE 802.11g 準拠と IEEE 802.11b 準拠を別のワイヤレス LAN ネットワークにし、使用しているチャンネルの間隔を5チャンネル以上あけてお使いください。

本製品と IEEE 802.11a 準拠の機器とは、使用している周波数帯域が異なるため、通信できません。ご注意ください。

本製品には、“外国為替及び外国貿易法”に基づく特定貨物が含まれています。したがって、本製品を輸出する場合には、同法に基づく許可が必要となる場合があります。

本製品にテレビを接続する場合は、適度な明るさの部屋で、できるだけテレビ画面から離れてご覧ください。ごくまれに強い光の刺激を受けたり、点滅を繰り返す画面を見ていると、一時的に筋肉のけいれんや意識の喪失などの症状を起こす方がおります。こうした症状を経験したことがある方は、テレビ画面をご覧になる前に、必ず医師にご相談ください。また、テレビ画面を見ている途中でこのような症状が起きた場合は、すぐに中止して医師の診断を受けてください。

本製品は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。
(社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

本製品は、社団法人電子情報技術産業協会が定める高調波ガイドライン適合品です。

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



本製品には、マクロビジョンコーポレーション及びその他の権利者が所有している米国特許の方法クレームその他の知的財産権で保護されている著作権保護のための技術が搭載されています。この著作権保護のための技術の使用に関しては、マクロビジョンコーポレーションの許可が必要ですが、家庭及びその他の限定された視聴に限っては許可を受けています。またリパースエンジニアリングや分解は禁止されています。

ドルビー、DOLBY、AC-3、プロロジック及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

本製品における MPEG-4 ライセンスに関する注意

本製品は、MPEG-4 ビジュアル規格特許ライセンスを管理する MPEG LA LLC から弊社が製造・販売のライセンス許諾を得て提供しているものです。MPEG-4 ビジュアル規格に準拠した態様で、本製品を個人が無償で使用することは、前記ライセンス許諾の範囲内であり許可されています。上記以外の使用については許可されておりません。

本製品の構成部品（プリント基板、CD/DVD ドライブ、ハードディスク、液晶ディスプレイなど）には、微量の重金属（鉛、クロム、水銀）や化学物質（アンチモン、シアン）が含まれています。

安全上のご注意

FMV-DESKPOWER を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、必ずお読みになり、正しく安全に、大切に取扱ってください。

電源・電圧・接続について



- ・感電のおそれがあるため必ずアース接続を行ってください。アース接続は必ず、電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、アース接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。



- ・アース線はガス管には絶対に接続しないでください。火災の原因となります。



- ・表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。また、タコ足配線をしないでください。感電・火災の原因となります。



- ・添付の電源ケーブル以外は使用しないでください。感電・火災の原因となります。



- ・濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。



- ・電源ケーブルやコネクタの金属部分に手を触れないでください。また、電源プラグを抜いた直後は、プラグに触らないでください。感電の原因となります。



- ・電源ケーブルや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。



- ・電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源ケーブルを傷め、感電・火災の原因となります。修理は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。



- ・電源プラグの金属部分、およびその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布でよく拭いてください。そのまま使用すると、火災の原因となります。



- ・カバーを外した状態で電源プラグをコンセントに差し込んだり、電源を入れたりしないでください。感電・火災の原因となります。










- ・周辺機器の取り付けや取り外しを行う場合は、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電・火災または故障の原因となります。









- ・近くで落雷のおそれがある場合は、パソコン本体の電源を切り、その後電源ケーブルをコンセントから抜き、モジュラーケーブルやアンテナケーブルをコネクタから抜いてください。そのまま使用すると、雷によっては機器を破壊し、感電・火災の原因となります。



-  感電
・電源プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。
電源ケーブルを引っ張ると、電源ケーブルの芯線が露出したり断線したりして、感電・火災の原因となることがあります。
-  発火
・電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。
火災・故障の原因となることがあります。
-  発火
・電源ケーブルは壁のコンセントに直接接続してください。
延長ケーブルなどを使用すると、火災の原因となることがあります。
-  発火
・ディスプレイ以外の機器（指定外の機器）を、パソコン本体に接続して電源を取らないでください。
火災・故障の原因となることがあります。
-  発火
・電源ケーブルを束ねて使用しないでください。
発熱して、火災の原因となることがあります。
-  発火
・指定外の AC アダプタは使用しないでください。
火災・けがの原因となることがあります。
-  故障
・ケーブルは正しく接続してください。
誤った接続状態で使用すると、機器本体および周辺機器が故障する原因となることがあります。

本体・周辺機器の取り扱いについて



-  感電
・本製品は主電源コンセントの近くに設置し、遮断装置（電源プラグ）へ容易に手が届くようにしてください。
万一、機器から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生したときは、ただちに機器本体の電源プラグをコンセントから抜いてください。
 発火
その後、異常な現象がなくなるのを確認して、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。
異常状態のまま使用すると、感電・火災の原因となります。
-  感電
・異物（水・金属片・液体など）が機器の内部に入ったときは、ただちに機器本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
その後、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
-  感電
・機器を落としたり、カバーなどを破損したときは、機器本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
その後、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。
-  感電
・機器をお客様ご自身で改造しないでください。また、マニュアル等で指示がある場合を除いて分解しないでください。
感電・火災の原因となります。
-  感電
・開口部（通風孔など）から内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
感電・火災の原因となります。



- 誤飲 ・ 取り外したカバー、キャップ、ネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かない所に置くように注意してください。
万一、飲み込んだときは、ただちに医師と相談してください。



- 感電 ・ 機器本体や AC アダプタに水をかけたり、濡らしたりしないでください。
感電・火災の原因となります。



- 感電 ・ 機器の上または近くに花びん・植木鉢・コップなどの水が入った容器や、クリップ・ピンなどの金属物を置かないでください。感電・火災の原因となります。



- 感電 ・ 台所など、湿気・ほこり・油煙の多い場所、通気性の悪い場所、火気のある場所に置かないでください。
感電・火災の原因となります。



- 感電 ・ 風呂場、シャワー室など、水のかかる場所で使用しないでください。
感電・火災の原因となります。



- 発火 ・ 乾電池は充電しないでください。
電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となります。



- 発火 ・ 乾電池を入れる場合、+（プラス）と-（マイナス）の向きに注意し、表示どおりに入れてください。
間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



- 発火 ・ 指定以外の乾電池は使用しないでください。また、新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用しないでください。
電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



- 発火 ・ 乾電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れてしないでください。
電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



- けが ・ 機器の上に重いものを置かないでください。また、衝撃を与えないでください。
バランスが崩れて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。



- けが ・ 振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所に置かないでください。
倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。



- 発火 ・ 機器の開口部（通風孔など）をふさがないように、機器と壁の間に 10cm 以上のすき間をあけてください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



- 発火 ・ 直射日光の当たる場所や炎天下の車内など、高温になる場所に長時間放置しないでください。
高温によってカバーなどが加熱・変形・溶解する原因となったり、機器内部が高温になり、火災の原因となることがあります。



- 発火 ・ 使用中の機器および AC アダプタは布などでおおったり、包んだりしないでください。
熱がこもり、火災の原因となることがあります。



- 視力障害 ・ CD/DVD ドライブのレーザー光の光源部を直接見ないでください。
目を傷める原因となることがあります。



注意



けが

- ・液晶ディスプレイが破損し、液状の内容物が流出して皮膚に付着したときは、流水で 15 分以上洗浄してください。また、目に入ったときは、流水で 15 分以上洗浄したあと、医師に相談してください。液晶ディスプレイの内部には、刺激性物質が含まれています。



故障

- ・周辺機器を接続する場合には、弊社純正品をご使用ください。弊社純正品以外の機器を使用すると、故障の原因となることがあります。



けが

- ・フロッピーディスクをセットするとき、および取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。



けが

- ・CD または DVDなどをセットするとき、および取り出すときには、CD/DVD ドライブのトレイやスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。



けが

- ・PC カードや SD カード／メモリスティックをセットするとき、および取り出すときには、PC カードスロットや SD カード／メモリスティックスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。



高温

- ・PC カードや SD カード／メモリスティックの使用終了直後は、PC カードや SD カード／メモリスティックが高温になっていることがあります。PC カードや SD カード／メモリスティックを取り出すときは、使用後しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となることがあります。



けが

- ・周辺機器類、マザーボードなどの取り付け、取り外しを行う際は、指定された場所以外のネジは外さないでください。指定された場所以外のネジを外すと、けがををするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



けが

- ・パソコン本体内部の突起物、および指定されたスイッチ以外には、手を触れないでください。けがををするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

ワイヤレス LAN 機能内蔵パソコンの取り扱いについて



警告



事故

- ・病院内や医用電気機器のある場所ではワイヤレス LAN 機能を OFF にしてください。特に手術室、集中治療室、CCU（冠状動脈疾患監視病室）などには持ち込まないでください。ワイヤレス LAN 機能からの電波が医用電気機器に影響を及ぼすことがあり、誤作動による事故の原因になります。



ペースメーカー

- ・心臓ペースメーカーの装着部位から 22cm 以上離してください。電波によりペースメーカーの作動に影響を及ぼすことがあります。



事故

- ・自動ドア、火災報知器等の自動制御機器の近くでは使用しないでください。ワイヤレス LAN 機能からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤作動による事故の原因になります。

その他



窒息

- ・梱包に使用しているポリ袋はお子様がお口にいたり、かぶって遊んだりしないよう、ご注意ください。
窒息の原因となります。



感電

- ・ディスプレイに何も表示できないなどの故障状態で本製品を使用しないでください。故障の修理は「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。



健康に注意

- ・本製品を無理な姿勢で長時間使い続けると、腰痛や腱鞘炎の原因となる場合があります。以下に示すような正しい姿勢で使用し、1時間に10分以上の休憩をとってください。

- ・いすに深く腰かけ、背筋を伸ばす。
- ・いすの高さを、足の裏全体がつく高さに調節する。
- ・ひじは90度以上に伸ばして操作する。

健康に注意



- ・ディスプレイを長時間見続けると、「近視」「ドライアイ」等、目の傷害の原因となることがあります。1時間に10分以上の休憩をとってください。また、なるべく画面を下向きに見る位置にする、意識的にまばたきをする、場合によっては目薬をさすなどしてください。



重量物

- ・本製品や液晶ディスプレイなどの重量のある装置を動かすときは、必ず2人以上で行ってください。
けがの原因となることがあります。



感電

- ・機器を移動するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、接続ケーブルなども外してください。作業は足元に十分注意して行ってください。
電源ケーブルが傷つき、感電・火災の原因となったり、機器が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。



感電

- ・長期間機器を使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
感電・火災の原因となることがあります。



聴力障害

- ・ヘッドホンなどをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。
耳を刺激するような大きな音量で長時間お使いになると、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。



聴力障害

- ・ヘッドホンなどをしたままパソコン本体またはテレビの電源を入れたり切ったりしないでください。
刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。



発火

- ・本製品（ホームサーバー機能を除く）は連続動作（24時間動作）を目的に設計されておりません。ご使用にならないときは電源を切ってください。火災の原因となることがあります。



感電

- ・モジュージャックに指などを入れないでください。
感電の原因となることがあります。



破裂

- ・機器の廃棄時には、他のゴミと一緒に捨てないでください。
本製品はリチウム電池を使用しており、火中に投げると破裂の恐れがあります。

乾電池について



危険



指示

- ・電池のアルカリ液が目に入ったときは、失明など障害のおそれがありますので、こすらずに水道水などの多量のきれいな水で十分に洗った後、すぐに医師の治療を受けてください。



警告



発火

- ・乾電池は充電しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となります。
- ・乾電池を入れる場合、+（プラス）と-（マイナス）の向きに注意し、表示どおりに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- ・指定以外の乾電池は使用しないでください。また、新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- ・乾電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れてください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



注意



故障

- ・長時間使用しないときは、乾電池の液漏れを防ぐため、乾電池を取り出しておいってください。万一液漏れした場合は、水に浸した布を硬く絞って金具、周囲を清掃し、その後、乾いた布で水分をよく拭き取ってください。
- ・電池から漏れた液が体についたときは、水でよく洗い流してください。また目や口に入ったときは、水でよく洗い流した後、ただちに医師の診断を受けてください。
- ・電池ボックスの端子をショートさせないでください。



破裂

- ・この電池は充電式には造られていません。充電すると絶縁物や内部構造などを損傷させたりして、電池を漏液、発熱、破裂させるおそれがあります。



感電

- ・電池に直接はんだ付けをしないでください。熱により絶縁物や安全弁などを損傷させたりして、電池を漏液、発熱、破裂させるおそれがあります。



故障

- ・電池は、直射日光・高温・高湿の場所を避けて保管してください。電池を漏液させるおそれがあります。また、電池の性能や寿命を低下させることがあります。

- ・寿命がなくなった乾電池はすぐに取り出してください。放置すると、腐食により装置を傷めることがあります。
- ・ご購入時に添付されている乾電池は初期動作確認用です。すぐに寿命に達する場合がありますので、お早めに新しい乾電池に交換してください。

この本で見つからない情報は、画面で検索しよう！



(サービスアシスタント)のトップ画面 →

検索

キーワードを選ぶ

目次

このマニュアルの表記について	3
安全上のご注意	7
第1章 各部名称	
1 パソコン本体前面	16
2 パソコン本体側面	17
パソコン本体左側面	17
パソコン本体右側面	18
3 パソコン本体背面	19
4 ワンタッチボタン	20
第2章 パソコンを使い始める前に	
1 確認してください	22
機種名を確認してください	22
添付品がすべて揃っているか確認してください	22
2 使用上のお願い	23
パソコン本体取り扱い上の注意	23
設置に適した場所	23
使用および設置に適さない場所	24
3 必要なものを揃える	26
パソコン本体の箱に入っています	26
第3章 接続する	
1 キーボード／マウスを準備する	28
2 電源ケーブルを接続する	30
第4章 電源を入れてパソコンの準備をする	
1 初めて電源を入れる	32
接続を確認する	32
初めて電源を入れる～Windowsのセットアップ	33
2 電源の切り方と入れ方	53
電源を切る	53
電源を入れる	62
3 準備が完了したら	64
パソコンの準備はすべて完了していますか？	64
パソコンの準備が完了したら『使いはじめガイド』へ	65
第5章 目的に合わせて接続／設定する	
1 周辺機器（メモリなど）を取り付ける	68
取り扱い上の注意	68
「FMVの使い方」をご覧ください	69
2 モジュラーケーブルを接続する	72
確認する	72
必要なものを用意する	72
接続する	73
3 ホームサーバー機能を使う（L70G/Fをお使いの方）	76

ホームサーバー機能について	76
Windows のセットアップが終わったら『ホームサーバー機能 取扱説明書』へ	77
4 ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスについて	78
使用に適した配置	78
乾電池について	79
通信周波数／ID 設定値について	81
5 MyMedia を使う	89
他のパソコンにファイルを公開する	89
公開する音楽、画像、動画ファイルを設定する	89
6 テレビを見る準備をする	90
準備の流れ	90
必要なものを用意する	90
リモコンを準備する	91
リモコンをお使いになる場合の注意	92
アンテナケーブルを接続する	93
チャンネルを設定する	95
テレビを見るときの注意	95

第6章 付 録

1 仕様一覧	98
パソコン本体	98
仕様一覧の注記について	102
液晶ディスプレイ	103
内蔵スピーカー	103
LAN 機能 (L70G、L50G、L70GN、L50GN をお使いの方)	104
ホームサーバー機能 (L70G/F をお使いの方)	104
高画質ハードエンコーダ付き TV チューナーカード	
/ハードエンコーダ付き TV チューナーカード	105
リモコン	105

索引	107
-----------	-----

1

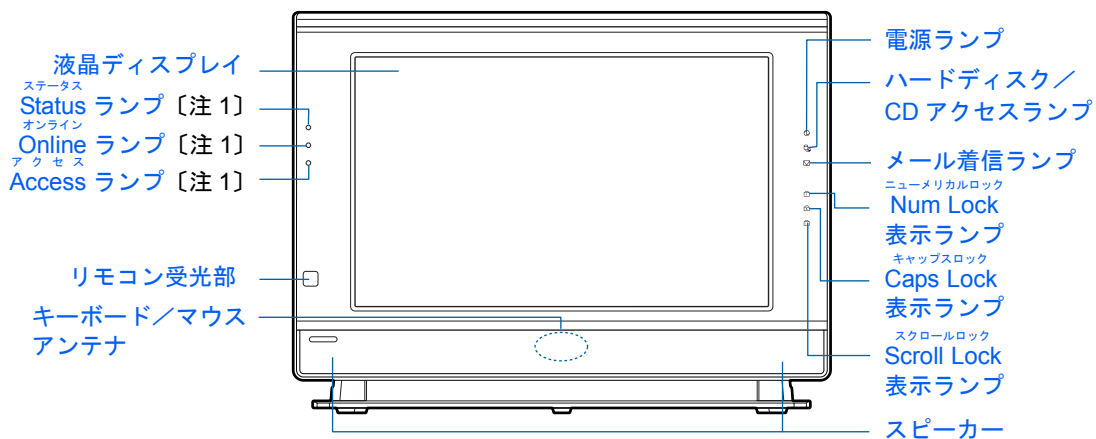
第 1 章 各部名称

パソコンの各部の名称について説明しています。

1	パソコン本体前面	16
2	パソコン本体側面	17
3	パソコン本体背面	19
4	ワンタッチボタン	20

1 パソコン本体前面

機種名の調べ方は、「機種名を確認してください」(●▶P.22)をご覧ください。



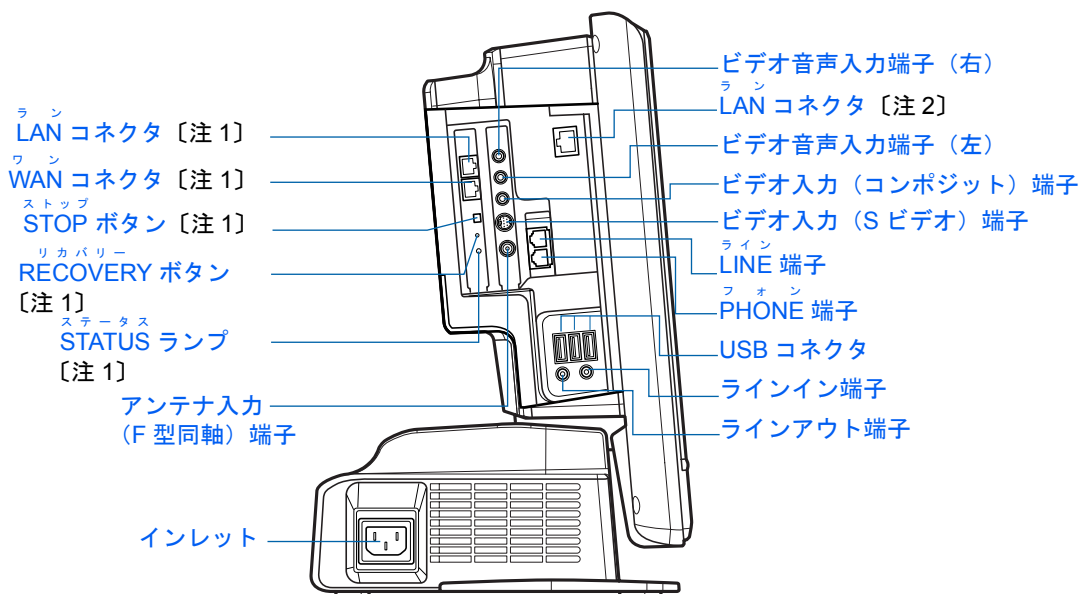
注1：ホームサーバー機能内蔵の機種のみ

詳しくは、☎(サービスアシスタント)のトップ画面→「FMVの使い方」→「基本機能」→「各部の名称と働き：パソコン本体前面」をご覧ください。なお、サービスアシスタントは、Windowsのセットアップ(●▶P.33～P.51)が終了してからご利用ください。

2 パソコン本体側面

パソコン本体左側面

機種名の調べ方は、「機種名を確認してください」(●▶P.22)をご覧ください。

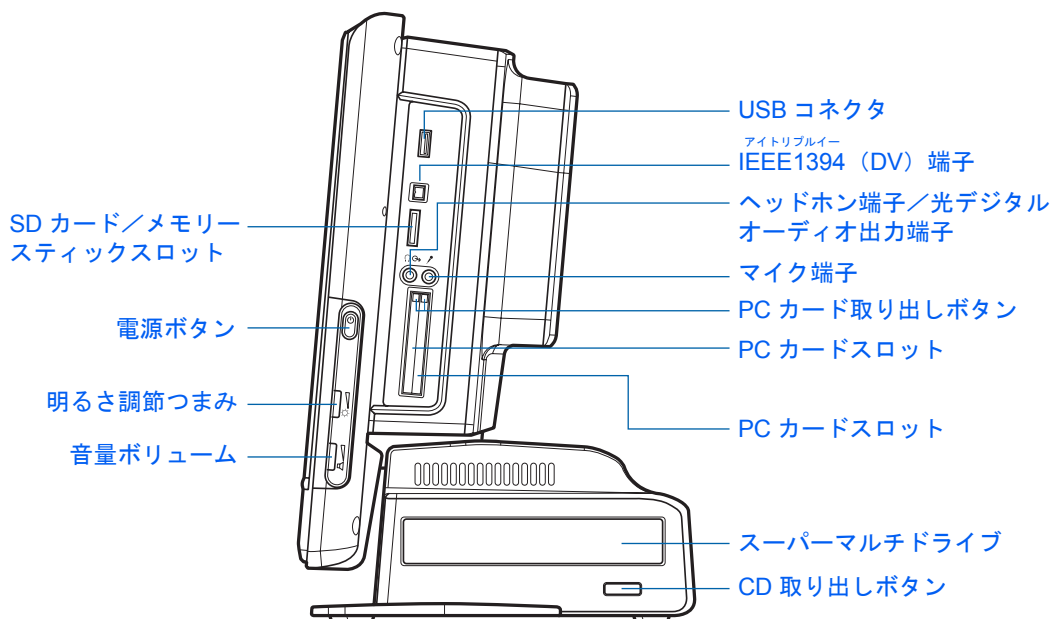


注 1 : ホームサーバー機能内蔵の機種のみ
注 2 : ホームサーバー機能を内蔵していない機種のみ

詳しくは、☎(サービスアシスタント) のトップ画面→「FMV の使い方」→「基本機能」→「各部の名称と働き：パソコン本体側面」をご覧ください。なお、サービスアシスタントは、Windows のセットアップ (●▶P.33 ~ P.51) が終了してからご利用ください。

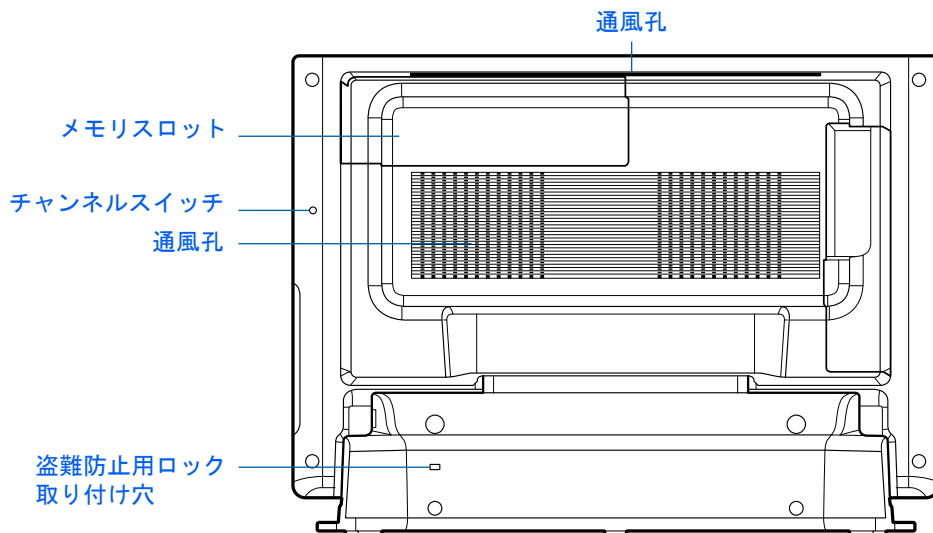
パソコン本体右側面

機種名の調べ方は、「機種名を確認してください」(●▶P.22)をご覧ください。



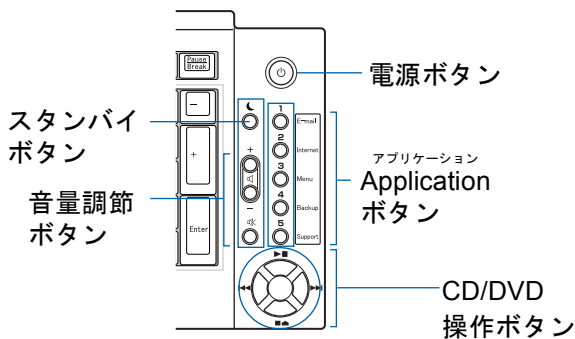
詳しくは、☎(サービスアシスタント)のトップ画面→「FMV の使い方」→「基本機能」→「各部の名称と働き：パソコン本体側面」をご覧ください。なお、サービスアシスタントは、Windows のセットアップ (●▶P.33 ~ P.51) が終了してからご利用ください。

3 パソコン本体背面

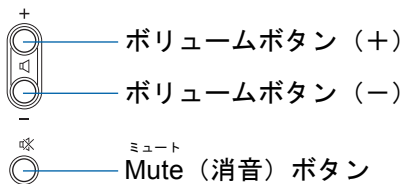


詳しくは、☎(サービスアシスタント) のトップ画面→「FMV の使い方」→「基本機能」→「各部の名称と働き：パソコン本体背面」をご覧ください。なお、サービスアシスタントは、Windows のセットアップ (●▶P.33 ~ P.51) が終了してからご利用ください。

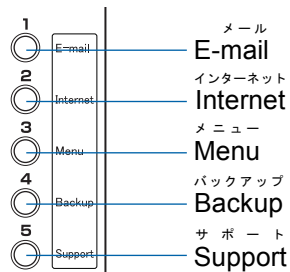
4 ワンタッチボタン



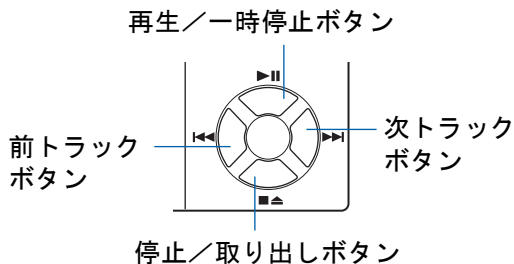
■ 音量調節ボタン



■ アプリケーションボタン



■ CD/DVD 操作ボタン



詳しくは、☎(サービスアシスタント)のトップ画面→「FMVの使い方」→「基本機能」→「各部の名称と働き：ワンタッチボタン」をご覧ください。なお、サービスアシスタントは、Windowsのセットアップ(▶▶P.33～P.51)が終了してからご利用ください。

2

第 2 章

パソコンを使い始める前に

最初に確認していただきたいことと、パソコンの設置場所について説明しています。

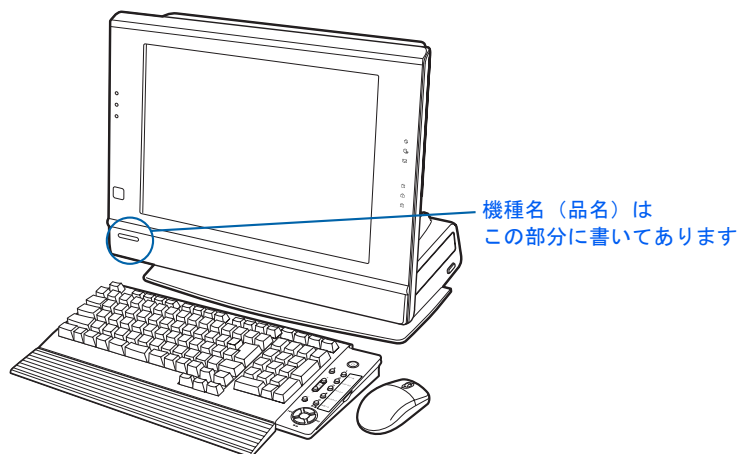
1 確認してください	22
2 使用上のお願い	23
3 必要なものを揃える	26

1 確認してください

最初に確認していただきたいことを説明します。

機種名を確認してください

お使いの機種によって、マニュアルを読む箇所が異なります。お使いのパソコンの機種名（品名）を確認しましょう。



添付品がすべて揃っているか確認してください

「箱の中身を確認してください」をご覧になり、添付品をもう一度ご確認ください。

ご購入後 1ヶ月以内のハードウェアトラブルや添付品の不足に関するお問い合わせは、「富士通パソコン診断センター」にご連絡ください。1ヶ月を過ぎると、有料となる場合やご提供できないものもありますのであらかじめご了承ください。富士通パソコン診断センターについては、「箱の中身を確認してください」裏面をご覧ください。



2 使用上のお願い

パソコン本体の取り扱い上の注意や、設置するのに適した場所、適さない場所を説明します。

2

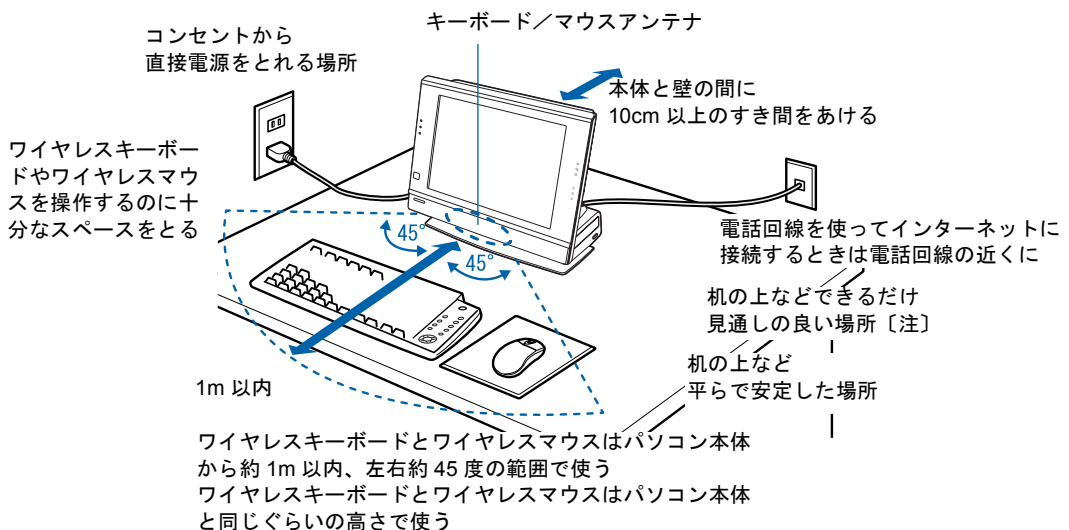
パソコン本体取り扱い上の注意

- ・ 衝撃を与えたり、強い力で押ししたりしないでください。故障の原因となることがあります。
- ・ ひっかいたり、先のとがったもので押さないでください。画面に傷がつく原因になります。
- ・ スピーカー前面を強い力で押ししたりしないでください。スピーカーが破損する原因となることがあります。
- ・ 画面やカバーにゴムやビニール製品を長時間接触させないでください。表面がはげたり、変質したりすることがあります。
- ・ 本製品の近くで、携帯電話や PHS などを使用すると、画面が乱れたり、異音が発生したりする場合がありますので、遠ざけてお使いください。
- ・ 本製品に接続したケーブル類を引っ張った状態で使用しないでください。故障や誤動作の原因となることがあります。

設置に適した場所

パソコンは、次のような場所でお使いください。

ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスは、無線でパソコンに信号を送ります。信号を受けるキーボード/マウスアンテナはパソコン本体に内蔵されています。



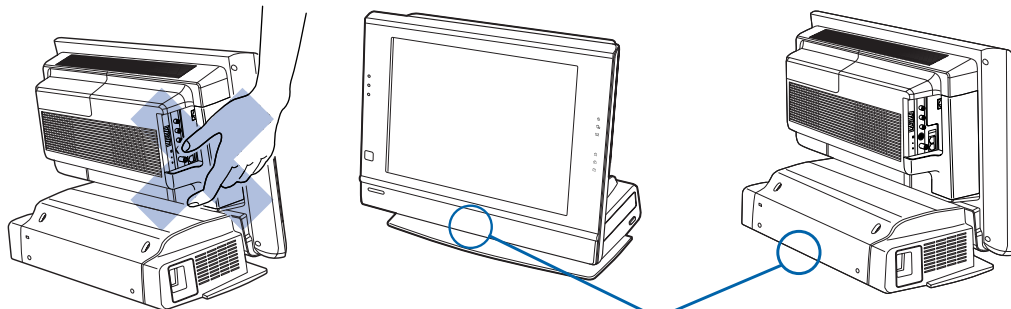
注：ホームサーバー機能内蔵の機種をお使いの場合

POINT

本体を持ち上げたり移動させたりする場合の注意

パソコン本体を持ち上げたり移動させたりするときは、本体左側面のカバーの部分を持たないでください。カバーが外れて落下するおそれがあります。

持ち上げる場合は、液晶ディスプレイの下側の中央部分と本体台座部分の下側の中央部分の2ヶ所を、両側から両手でつかんで持ち上げるようにしてください。

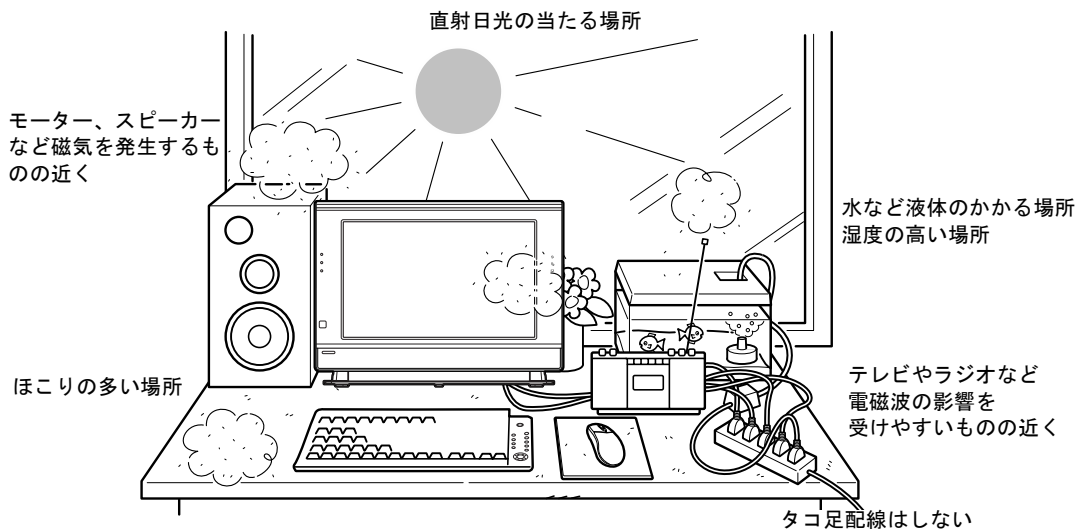


この部分をつかんでください

使用および設置に適さない場所

誤動作、故障、劣化、受信障害の原因となるため、次のような場所ではお使いにならないでください。

極端に高温または低温になる場所
結露する場所



POINT

- 本製品の使用環境は温度 10 ~ 35 °C / 湿度 20 ~ 80%RH (動作時)、温度 -10 ~ 60 °C / 湿度 20 ~ 90% RH (非動作時) です。
- 結露は、空気中の水分が水滴になる現象です。温度の低い場所 (クーラーの効いた場所、寒い屋外など) から、温度の高い場所 (暖かい室内、炎天下の屋外など) へ移動したときに起こります。結露が発生すると故障の原因となりますので、ご注意ください。

電波の影響を受ける環境でお使いになる場合

次のような環境でお使いになると、周囲からの電波の影響を受けて、ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスがうまく動作しないことがあります。

- ・ パソコン本体をスチール机やスチール棚のような金属製の台の上に乗せている
- ・ パソコン本体と、ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスの間に電気・電子機器や金属製のものを置いている
- ・ 周囲でノイズ源となる電気・電子機器（無線機器を含む）を使用している
- ・ 周囲にこのパソコンと同じ周波数の電波を使用している機器がある（このパソコンを複数台でお使いの場合、無線局の近隣でお使いの場合、周囲でラジコンや無線機をお使いの場合など）

このような場合には、ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスの通信周波数／ID 設定値を変更すると、動作する場合もあります。詳しくは、「通信周波数／ID 設定値について」（▶P.81）をご覧ください。

■ ホームサーバー機能内蔵の機種をお使いの方

次のような場所でお使いになると、周囲の電波の影響を受けて、ワイヤレス LAN 接続が正常に行えないことがあります。

- ・ BluetoothTM 対応機器の 10m 以内
- ・ 電子レンジの近く
- ・ アマチュア無線機の近く
- ・ 足元など見通しの悪い場所

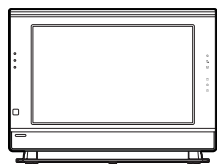
3 必要なものを揃える

必要なものをあらかじめ揃えてから、第3章へ進みましょう。

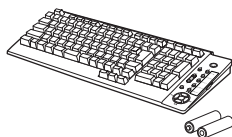
パソコン本体の箱に入っています

注：イラストは実際と若干異なる場合があります。

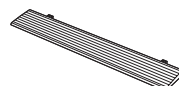
■ パソコン本体



■ ワイヤレスキーボード 単3 アルカリ乾電池×2



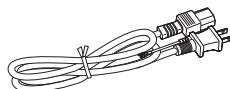
■ パームレスト



■ ワイヤレスマウス 単4 アルカリ乾電池×2



■ 電源ケーブル



■ 保証書



梱包箱に貼り付けられています。

続いて、パソコンの接続をしましょう（→▶P.27）。

3

第 3 章 接続する

パソコンの接続について説明しています。

1 キーボード／マウスを準備する	28
2 電源ケーブルを接続する	30



注意



故障

・ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体および周辺機器が故障する原因となることがあります。

1 キーボード／マウスを準備する

ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスに添付のアルカリ乾電池を入れます。



・乾電池を入れる場合、+（プラス）と-（マイナス）の向きに注意し、表示どおりに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



ご購入時に添付されている乾電池はお早めに交換してください

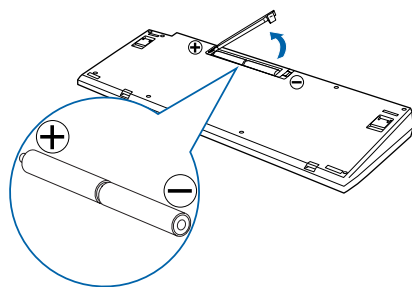
ご購入時に添付されている乾電池は初期動作確認用です。すぐに寿命に達する場合がありますので、お早めに新しい乾電池に交換してください。詳しくは、「乾電池について」(●▶P.79)をご覧ください。

このパソコンを複数台お使いの場合

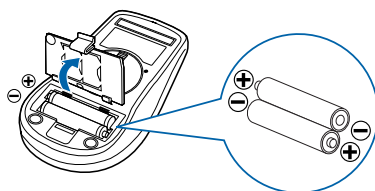
このパソコン複数台を、近くで同時に操作すると、ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスが混信し、初めて電源を入れてから行う操作（Windows のセットアップ）が正常に行われない場合があります。Windows のセットアップは 1 台ずつ行い、セットアップ終了後に「通信周波数 / ID 設定値について」(●▶P.81) をご覧になり、ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスの通信周波数 / ID 設定値を変更してください。

1 ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスを裏返して電池ボックスを開け、添付のアルカリ乾電池を入れます。

■ ワイヤレスキーボード

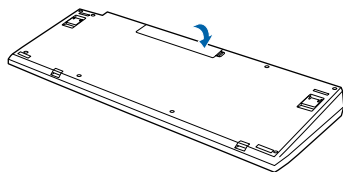


■ ワイヤレスマウス



2 電池ボックスを閉めます。

■ ワイヤレスキーボード

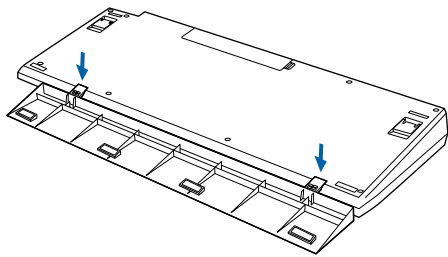


■ ワイヤレスマウス



POINT**ワイヤレスキーボードには、添付のパームレストを取り付けることができます**

ワイヤレスキーボードを裏返して、ワイヤレスキーボードにパームレストを取り付けます。



パームレストを取り付けた状態で、パームレストに無理な力をかけないでください。取り付け部分が破損する場合があります。

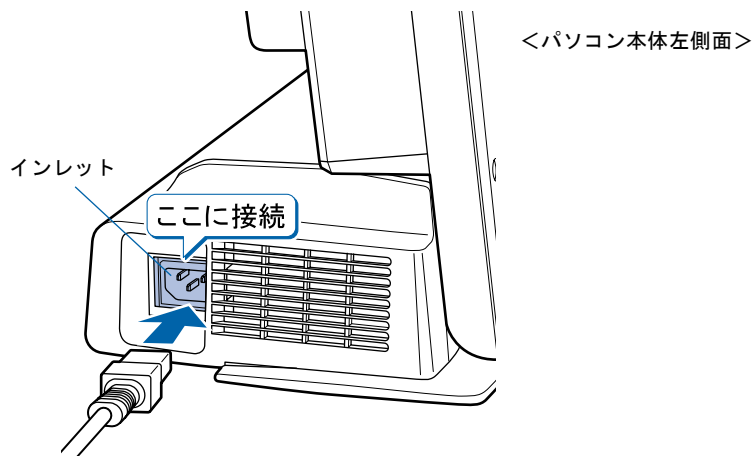
続いて、電源ケーブルを接続しましょう (●▶P.30)。

2 電源ケーブルを接続する

パソコン本体の電源ケーブルを接続します。

1 電源ケーブルを、パソコン本体に接続します。

コネクタの向きに注意して差し込んでください。



重要

ホームサーバー機能内蔵機種の場合

ホームサーバーのシステムが破損するおそれがあるので、Windows のセットアップ中は、絶対に電源ケーブルを抜かないでください。また、セットアップ終了後に電源ケーブルをコンセントから抜くときは、「電源ケーブルをコンセントから抜く場合」(●▶P.56)をご覧ください。

ここではまだ電源プラグをコンセントに差し込まないでください

電源プラグを差し込む前に、「接続を確認する」(●▶P.32)をご覧ください。

続いて、電源を入れましょう (●▶P.32)。

4

第4章

電源を入れてパソコンの準備をする

初めてパソコンの電源を入れるとき最初に行う準備について説明しています。このマニュアルの手順どおりに進めてください。

1	初めて電源を入れる	32
2	電源の切り方と入れ方	53
3	準備が完了したら	64

1 初めて電源を入れる

接続を確認する

電源を入れる前に、下のイラストをご覧になり、正しく接続できているか確認してください。

重要



ケーブルはグラグラしていませんか？

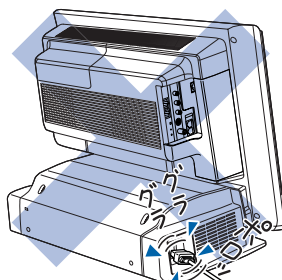
奥までしっかりと差し込まれているか、もう一度お確かめください。

セットアップ前には、LAN ケーブルやターミナルアダプタ (TA) を接続しないでください

LAN ケーブル、ターミナルアダプタ (TA) などが接続されていると、初めて電源を入れてから行う操作 (Windows のセットアップ) の途中でパソコンが動かなくなってしまうことがあります。Windows のセットアップが終わった後で、接続してください。

LAN ケーブルの接続方法については、次のマニュアルをご覧ください。

- ・ L70G/F をお使いの方は、 (サービスアシスタント) のトップ画面 → 「FMV の使い方」 → 「基本機能」 → 「ホームサーバー機能を使う / LAN を使う」をご覧ください。
- ・ L70G、L50G、L70GN、L50GN をお使いの方は、 (サービスアシスタント) のトップ画面 → 「FMV の使い方」 → 「基本機能」 → 「LAN を使う」をご覧ください。



セットアップ前には周辺機器は接続しないでください

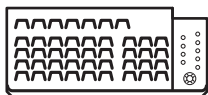
プリンタやメモリなどの周辺機器が接続されていると、初めて電源を入れてから行う操作 (Windows のセットアップ) の途中でパソコンが動かなくなってしまうことがあります。Windows のセットアップが終わった後で、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

ワイヤレスキーボード / ワイヤレスマウスについて

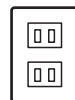
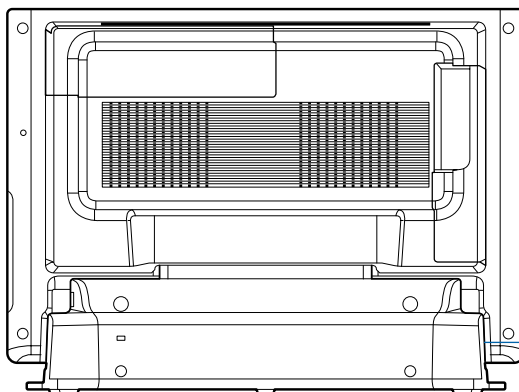
ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスの操作範囲はディスプレイから約 1m 以内です。使用環境によっては、操作範囲が短くなったり、他のワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスと混信し正常に動作しなくなるおそれがあります。その場合は、Windows のセットアップ終了後、「通信周波数 / ID 設定値について」(▶P.81) をご覧になり、ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスの通信周波数 / ID 設定値を変更すると改善されることがあります。



ワイヤレスマウス [注1]



ワイヤレスキーボード [注1]



コンセント

電源ケーブル [注2]

注 1 : 添付の乾電池が正しく入っているか確認してください。

注 2 : ここではまだコンセントに接続しないでください。

初めて電源を入れる～Windows のセットアップ

初めて電源を入れるときは、**Windows のセットアップ**という作業が必要です。Windows のセットアップは、初めてパソコンの電源を入れるときに、1 回だけ行う操作です。このマニュアルの手順どおりに進めてください。この Windows のセットアップが終わらないと、パソコンは使えるようになりません。

セットアップ時の注意事項

ホームサーバー機能内蔵の機種 of 注意事項

ホームサーバー機能内蔵の機種の場合、電源プラグをコンセントに接続すると、自動的にパソコン本体の電源が入り、セットアップが始まります。

ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスをあらかじめ準備した上で電源プラグをコンセントに接続してください。準備していない場合は、「接続する」(▶▶P.27)をご覧ください。

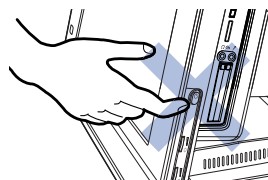
ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスの注意事項

このパソコン複数台を、近くで同時に操作すると、ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスが混信し、初めて電源を入れてから行う操作（Windows のセットアップ）が正常に行われなない場合があります。

Windows のセットアップは 1 台ずつ行い、セットアップ終了後に「通信周波数／ID 設定値について」(▶▶P.81)をご覧ください。ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスの通信周波数／ID 設定値を変更してください。

セットアップが終わるまで電源を切らないでください

Windows のセットアップを途中で止めると、Windows が使えなくなる場合があります。セットアップの最後の手順が終わるまでは、電源を切らないでください。もし電源を切って Windows が使えなくなった場合、『トラブル解決ガイド』→「Q & A 集」→「電源が入らない、画面が表示できないトラブル」→「Q パソコンの電源を入れると、再起動を繰り返す」をご覧ください。



セットアップ中の画面表示について






セットアップ中は、画面の両端が黒く表示されますが、故障ではありません。セットアップ終了後は全画面表示になります。

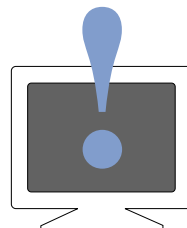
画面が乱れることがあります

電源を入れてから「Microsoft Windows へようこそ」という画面が表示されるまでの間、一瞬画面が乱れることがあります。故障ではありませんのでそのままお使いください。

しばらく操作しないと

電源を入れた状態でしばらく（約 15 分間）操作しないと、動画（スクリーンセーバー）が表示されたり、画面が真っ暗になったりすることがありますが、電源が切れたわけではありません。これはパソコンの省電力機能が働いている状態です。

マウスを動かしたり、キーボードの     や  のどれかを押ししたりすると、元の画面に戻ります。



Windows のセットアップを始めましょう。

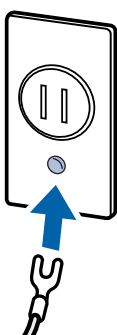
「Windows のセットアップ」とは、次の4つの作業のことです。合計35手順あります。

- 1 「Windows の設定」..▶手順 1 ~ 12
- 2 「必ず実行してください」の実行..▶手順 13 ~ 21
- 3 「サービスアシスタントの起動・終了方法」..▶手順 22 ~ 26
- 4 「所在地情報の設定」..▶手順 27 ~ 35

ページの右端にセットアップの進行状況を示していますので参考にしてください。

Windows の設定

- 1 アース線をコンセントのアースネジに差し込みます。



重要

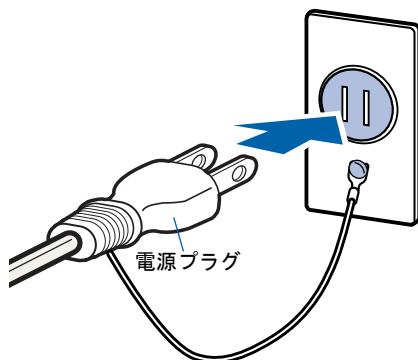
アース線について

安全のため、電源ケーブルにはアース線がついています。コンセントに電源プラグを差し込む前に、必ずアース線をコンセントのアースネジへ接続してください。

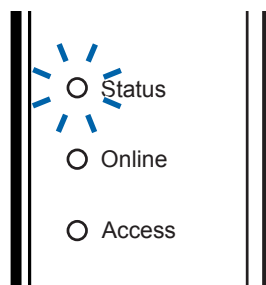
電源ケーブルを抜くときは、先に電源プラグを抜いてからアース線を外してください。

2 電源ケーブルを、コンセントに差し込みます。

電源プラグを、コンセントに差し込みます。



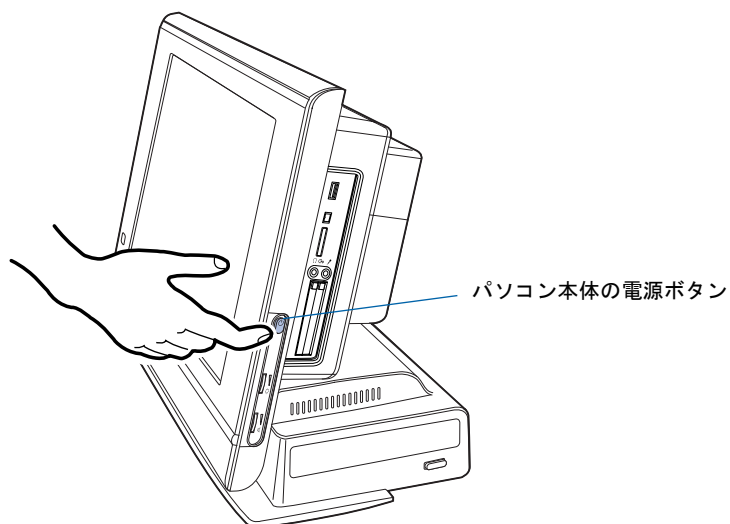
ホームサーバー機能内蔵の機種をお使いの場合は、数秒間電源ランプが点灯し（この後、ディスプレイ左側の Status ランプ、パソコン本体左側面の STATUS ランプがオレンジ色に点灯し続けます）、約 1～2 分後に自動的にパソコン本体の電源が入ります。



この間、画面が真っ暗で変化がなくても、故障ではありません（起動には約 1～2 分かかります）。

ホームサーバー機能内蔵の機種をお使いの方は、手順 4 へ進んでください。

- 3** ホームサーバー機能を内蔵していない機種をお使いの方のみ、パソコン本体の電源ボタンを押します。



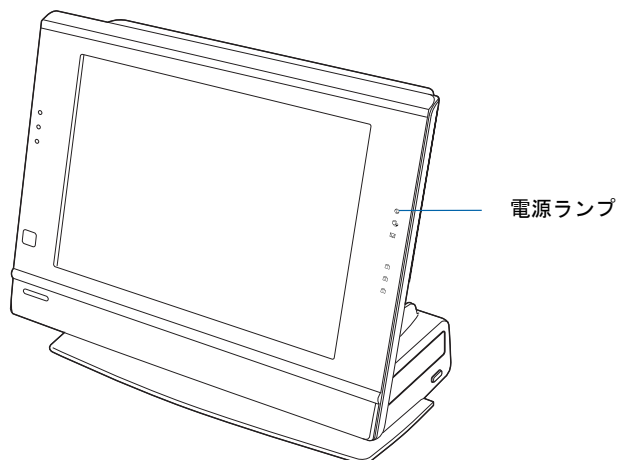
重要

ホームサーバー機能内蔵の機種をお使いの方は

ここでは絶対に電源ボタンを押さないでください。Windows が使えなくなる場合があります。

- 4** パソコン本体の電源ランプが緑色に点灯することを確認します。

電源が入ると、画面にさまざまな文字などが表示されます。



POINT

ホームサーバー機能内蔵の機種をお使いの方は

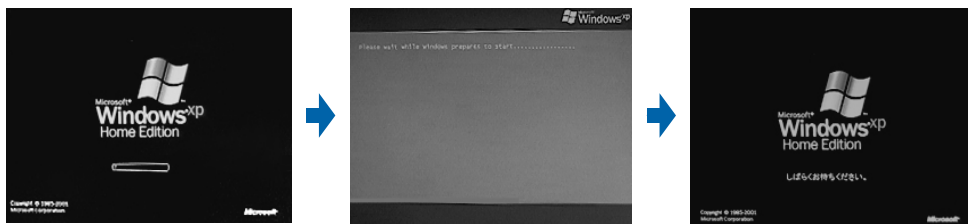
ホームサーバー機能内蔵の機種をお使いの方は、電源ケーブルをコンセントに差し込んでからパソコン本体の電源ランプが緑色に点灯するまで、約1～2分かかります。

画面に何も表示されない場合は（ホームサーバー機能を内蔵していない機種をお使いの方）

もう一度電源ボタンを押してみてください。

5 そのまましばらくお待ちください

電源を入れると、次のような画面が表示されます。



パソコンが再起動します。この間、画面が真っ暗になったり、画面に変化がなかったりすることがありますが、故障ではありません。

手順7の画面（▶▶P.38）が表示されるまで、電源を切らずにそのままお待ちください。

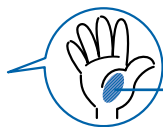
途中で電源を切ると、Windows が使えなくなる場合があります。

もし電源を切って Windows が使えなくなった場合は、『トラブル解決ガイド』→「Q & A 集」→「電源が入らない、画面が表示できないトラブル」→「Q パソコンの電源を入れると、再起動を繰り返す」をご覧ください。

6 マウスを用意します。

マウスを机の上などの平らな場所に置き、左右のボタンに指がかかるように手を軽く乗せます。

手のひらの下の部分が、軽く机に触れるようにしてください。

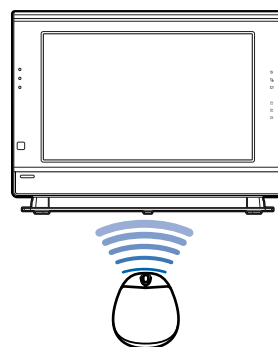


ここが机に触れるようにします

POINT

マウスの向きに注意！

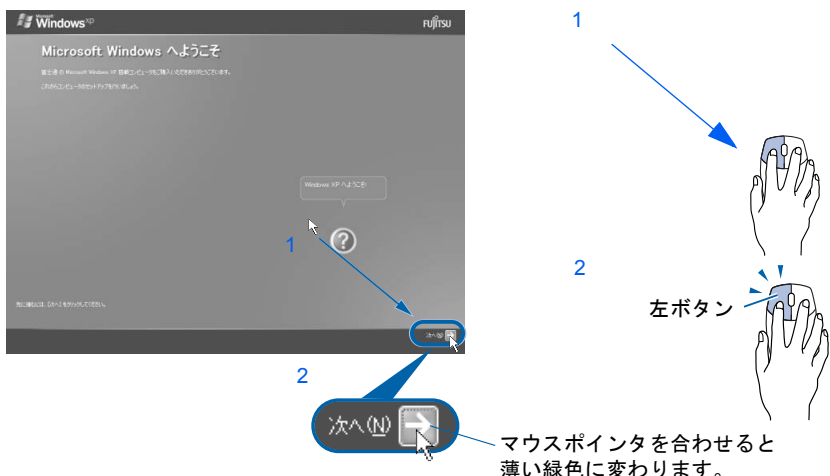
ワイヤレスマウスはボタンがあるほうをパソコン本体に向けて使います。



7 1 画面上の \rightarrow を「次へ」の右の \rightarrow に合わせ、2 マウスの左ボタンを軽くカチッと1回押して、すぐ離します。

マウスを平らな場所に置いたまま、すべらせると、マウスの動きに合わせて、 \rightarrow (マウスポインタ) が画面の上を動きます。

2の操作のことを、「クリック」といいます。



POINT

これ以降は機種により画面が異なる場合があります。

このマニュアルと違う画面が表示された場合は、画面の指示に従い、手順 11 まで進めてください。

キーボードやマウスで操作できない場合

キーボードやマウスが操作できなくなった場合は、「使用上のお願い」(●▶P.23)をご覧ください、パソコンを設置している環境を確認してください。それでも操作できない場合は、次の手順に従ってパソコンの電源を入れ直してください。

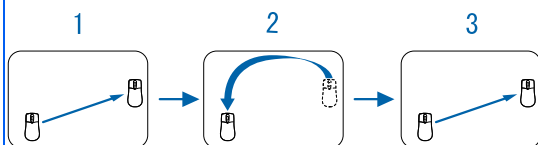
1. 電源ボタン (●▶P.18) を 4 秒以上押したままにして、強制的に電源を切ります。
2. ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスに乾電池が正しく入っているか確認します (●▶P.28)。
3. もう一度電源ボタンを押します (4 秒以上押さないでください)。

マウスのしくみ

マウスには裏面にボールが付いています。マウスを机の上ですべらせると、ボールが回転して、画面上のマウスポインタが動くようになっています。

マウスが机の端まできたら

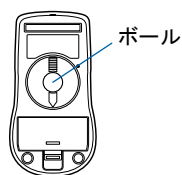
1 マウスが机の端まできたら、2 いったんマウスを持ち上げて、もう一度別の位置から動かしてください。マウスを持ち上げている間は、マウスポインタは動きません。





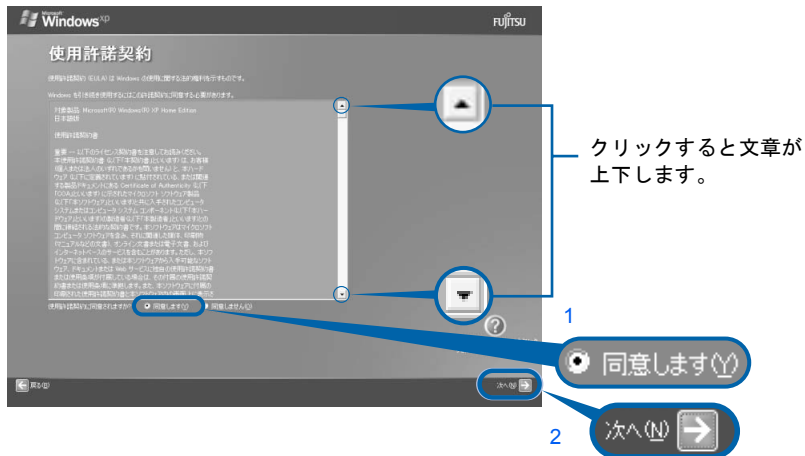
マウスを持ち上げている間は
マウスポインタは動きません。

ボタンは軽く押すだけで OK!

力を入れて押す必要はありません。マウスのボタンはカチッと1回押したら、すぐ指を離すようにします。



- 8** **1 Windows の使用許諾契約書の内容をご覧になり、ご同意いただけるときは「同意します」をクリックして**  **にし、** **2 「次へ」の右の**  **をクリックします。**




次の画面が表示されるまで、少し時間がかかることがありますが、そのままお待ちください。



「同意しません」をクリックした場合

「続ける前に...」という画面が表示されます。使用許諾契約書にご同意いただけないと、このパソコンはお使いになれません。

手順8の画面に戻るには、表示された画面で「戻る」の左の  をクリックしてください。

- 9** **「次へ」の右の**  **をクリックします。**

表示されているコンピュータの名前は、ここでは変更しません。



次の画面が表示されるまでお待ちください。



ホームサーバー機能内蔵の機種の場合

コンピュータの名前を「FNPC」から変更しないでください。このコンピュータ名を変更すると、ホームサーバー機能が正常に動作しません。

電源を切らずに次のページへ

10 「次へ」の右の➡をクリックします。



POINT

こんな画面が出た！

「インターネットに接続する方法を指定してください」という画面が表示された場合は、「省略」の右の➡をクリックします。

インターネット接続の設定は、セットアップが最後まで終わってから、『使いはじめガイド』→「パソコンで通信をする準備」をご覧になり、設定してください。

11 1 「いいえ、今回はユーザー登録しません」をクリックして⊙にし、2 「次へ」の右の➡をクリックします。



POINT

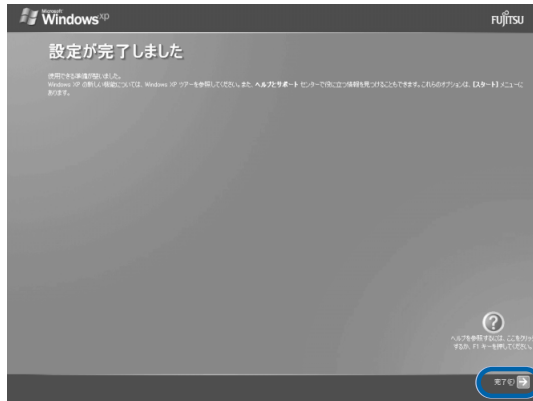
「はい、今すぐユーザー登録します」を選択して進んでしまった場合

「ユーザー登録情報を入力してください」という画面で「戻る」の左の⏪をクリックして、手順 11 からやり直します。

「今すぐインターネットアクセスのセットアップを行いますか？」という画面が表示された場合

「いいえ、今回はインターネットに接続しません」をクリックして⊙にし、「次へ」の右の➡をクリックします。

12 「完了」の右の➡をクリックします。



パソコンが再起動します。

次の画面が表示されるまで、少し時間がかかることがありますが、そのままお待ちください。

POINT

Windows 起動時、または終了時の画面について

Windows 起動時、または終了時に、画面左上が白くぼやけて見えるときがあります。これは画面のデザインであり故障ではありません。

「FMV」ロゴ入りの壁紙が表示された画面について

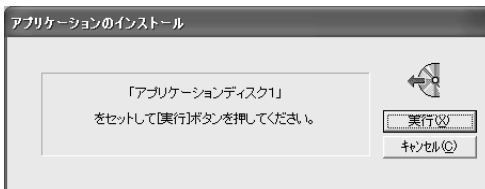
「FMV」ロゴ入りの壁紙が表示された画面では、画面がにじんだように見えるときがあります。これは壁紙のデザインであり故障ではありません。

「アプリケーションディスク 1」をセットして [実行] ボタンを押してください。」というメッセージが表示された場合

ご購入後初めて電源を入れて Windows のセットアップを行っている場合は、このメッセージは表示されません。

メッセージが表示されない場合は、そのまま次の手順にお進みください。

☑『トラブル解決ガイド』をご覧になりリカバリ作業を行っている場合は、再起動後に「アプリケーションディスク 1」をセットして [実行] ボタンを押してください。」というメッセージが表示されます。



メッセージが表示された後の手順については、もう一度☑『トラブル解決ガイド』をご覧ください。

「必ず実行してください」の実行

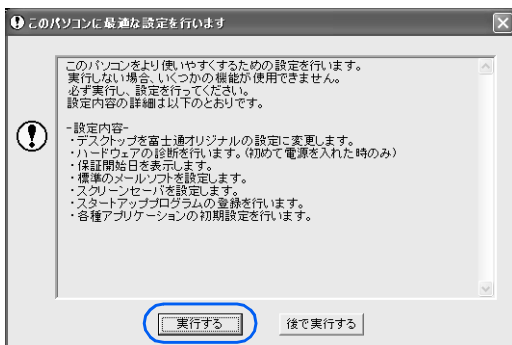
13 1「スタート」ボタン→2 必ず実行してください の順にクリックします。

必ず実行してください は、パソコンの初期設定を行うプログラムです。以降の手順は最後まで必ず実行してください。実行しないと、いくつかの機能がお使いになれません。

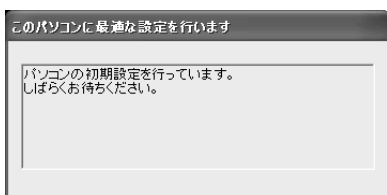


(これ以降の画面は状況により異なります)

14 「実行する」をクリックします。

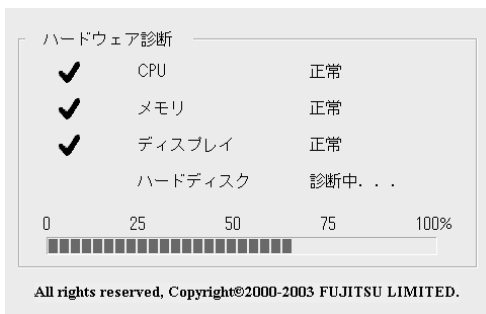


パソコンの初期設定が始まり、次の画面が表示されます。手順 15 の画面が表示されるまで、そのままお待ちください。



15 ハードウェア診断が始まり、次の画面が表示されます。手順 16 の画面が表示されるまで、そのままお待ちください。

途中、ディスプレイを診断する画面なども表示されます。

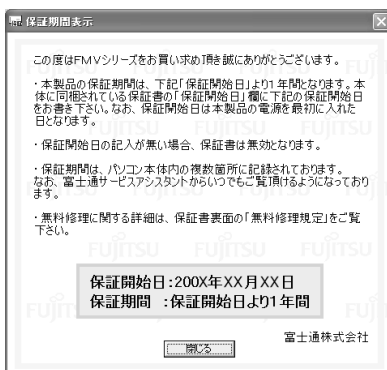


重要

ハードウェア不良の画面が表示された場合

画面の指示に従ってください。

16 この画面が表示されたら、保証書を用意します。



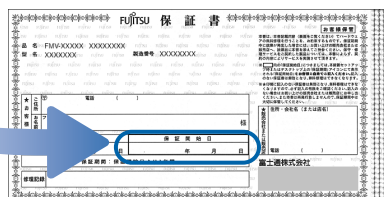
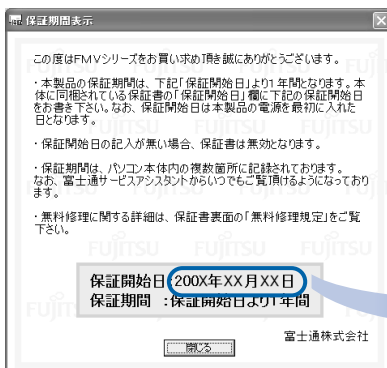
保証書は梱包箱に貼り付けられています。



17 画面に表示された保証開始日を、保証書に書き写します。

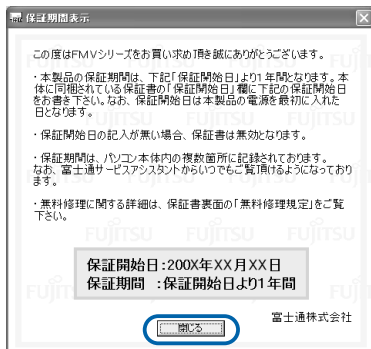
保証書に保証開始日が記入されていないと、保証期間内であっても有償での修理となります（なお、保証開始日は本製品の電源を最初に入れた日になります）。

保証書は大切に保管してください。

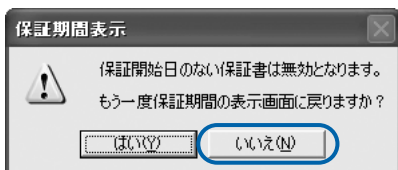


電源を切らずに次のページへ

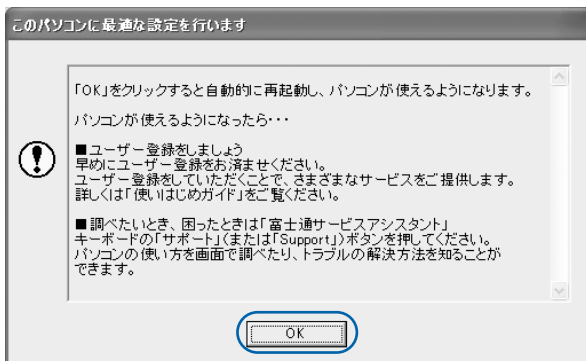
18 「閉じる」をクリックします。



19 次の手順に進んで良ければ「いいえ」をクリックします。 もう一度保証期間を確認したいときは「はい」をクリックしてください。



20 「OK」をクリックします。



画面がいったん暗くなり、パソコンの再起動が始まります。
次の画面が表示されるまで少し時間がかかることがあります、そのままお待ちください。

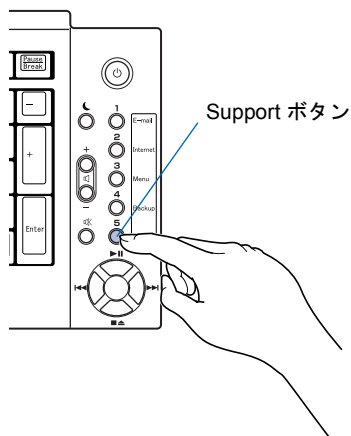
21 画面が表示されたことを確認します。



サービスアシスタントの起動・終了方法

サービスアシスタントは、パソコンの操作でわからないことがあったとき、困ったときにご覧ください。ここでは、サービスアシスタントを一度起動・終了してみます。

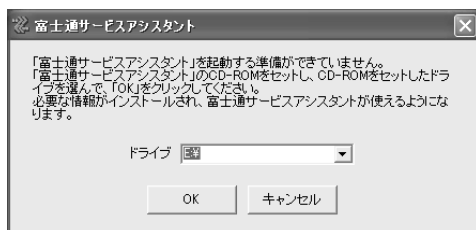
22 キーボードの「Support」ボタンを押します。



POINT

「富士通サービスアシスタント」を起動する準備ができていません。」というメッセージが表示されたときは

このパソコンに添付されているⓂ「富士通サービスアシスタント」のCD-ROMをセットし、画面のメッセージに従ってインストールしてください。



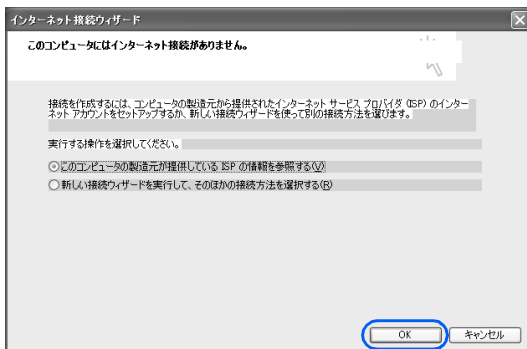
機種を選択する画面が表示されたときは

別紙などで特に指示がない限り、お使いの機種名（品名）を選んでください。機種名の調べ方は「機種名を確認してください」（**▶P.22）をご覧ください。

ホームサーバー機能内蔵の機種をお使いの場合は、手順 23、24 の画面は表示されません。手順 25 へ進んでください。

23 次の画面が表示されたら、「OK」をクリックします。

インターネット接続の設定は後で行います。ここではインターネットに接続しません。



POINT

最新のサポート情報をインターネットでご案内しています

サービスアシスタントには、インターネットを使って最新のサポート情報を表示する機能があります。この機能はインターネット接続の設定を行うと利用できるようになります。セットアップが最後まで終わってから『使いはじめガイド』→「パソコンで通信をする準備」をご覧ください、設定してください。

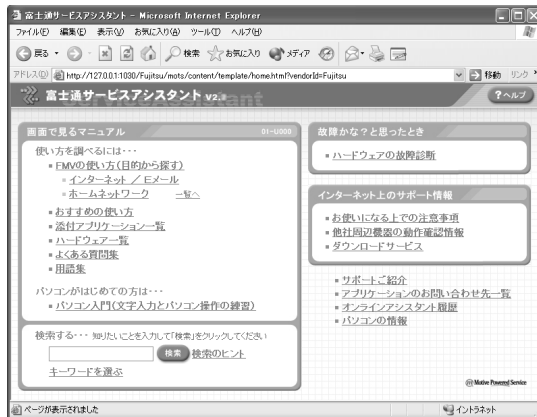
@nifty を紹介する画面が表示されます。@nifty に入会したい方は、『使いはじめガイド』をご覧ください、後で入会手続きを行ってください。



24 ウィンドウ右上にある **X** をクリックします。



25 サービスアシスタントが起動します。



これがサービスアシスタントのトップ画面です。「ヘルプ」をクリックすると詳しい使い方がわかります。

26 続けてセットアップを行うので、サービスアシスタントのトップ画面で をクリックし、サービスアシスタントを終了します。



POINT

この後、続けて操作を行ってください。

この後の所在地情報の設定は、インターネットに接続するときなどに必要になります。このまま手順を最後まで続けてください。

これ以降、サービスアシスタントを起動するには

キーボードの「Support」ボタンを押してください。手順 23 ~ 24 の画面は、サービスアシスタントを初めて起動したときだけ表示されます。

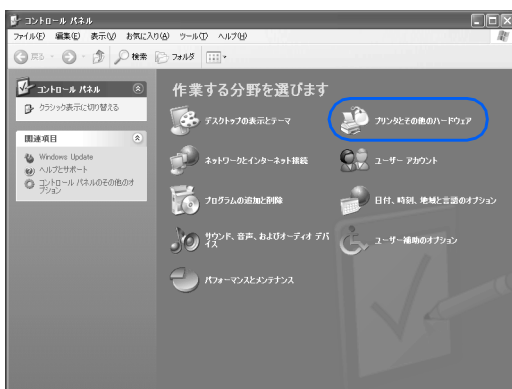
所在地情報の設定

27 1「スタート」ボタン→2「コントロールパネル」の順にクリックします。

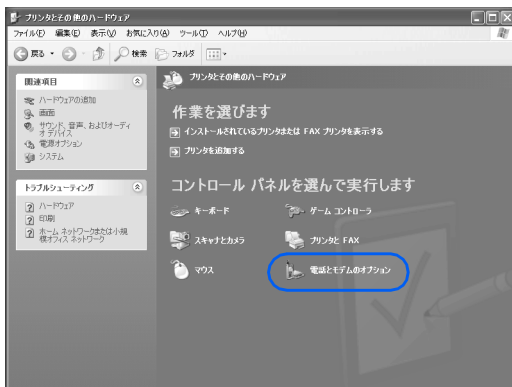


(これ以降の画面は、機種や状況により異なります)

28 「プリンタとその他のハードウェア」をクリックします。



29 「電話とモデムのオプション」をクリックします。

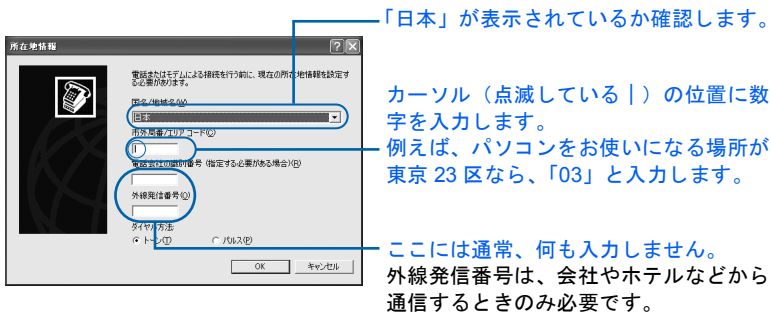


30 「市外局番」の下の空欄にマウスを合わせ、Iに変わったらクリックします。

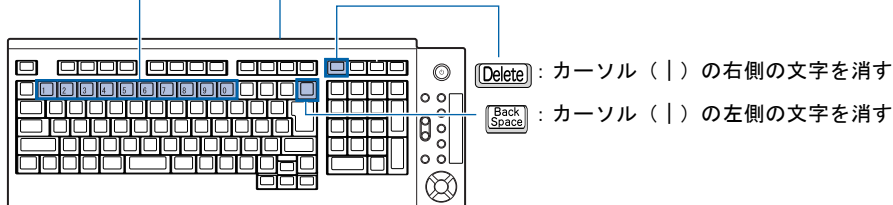
クリックすると文字を入力するためのカーソル (|) が点滅して表示されます。



31 パソコンをお使いになる場所の市外局番を入力します。



数字キーで入力します。 こちら側をディスプレイに向けて使います



(イラストは機種により異なります)

POINT

キーボードの向きに注意!

ワイヤレスキーボードは図の上側をディスプレイに向けて使います。

数字が入力できない場合

市外局番の欄にカーソル (|) が点滅していることを確認してください。
カーソル (|) がいない場合は、入力したい欄をクリックしてカーソルを表示させます。

文字を消したい場合

カーソル (|) の左側の 1 文字を消すには : **[Back Space]** を押します。
カーソル (|) の右側の 1 文字を消すには : **[Delete]** を押します。

「入力した文字が無効です」と表示された場合

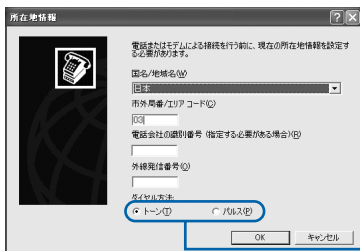
画面右下が **[A]** になっていない場合は、**[キャンセル]** を押します。

市外局番を入力せずに「OK」をクリックしてしまった場合

「電話とモデムのオプション」という画面が表示されます。「編集」をクリックし、市外局番を入力した後、次の手順に進んでください。手順 33 までは画面が異なりますが、手順に従って、該当する項目を操作してください。

電源を切らずに次のページへ

32 ダイヤル方法を設定します。



インターネットなどに使う電話回線のダイヤル方法を設定します。詳しくは、次のPOINTをご覧ください。
回線の種類がわからない場合は、「トーン」をクリックしてください。

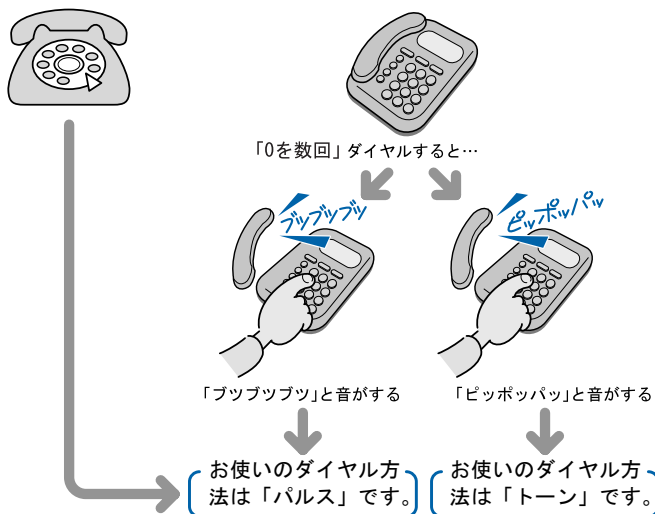
POINT

一般の電話回線を使う場合

ダイヤル方法は次の方法で確認します。

ダイヤル式電話機をお使いの場合

プッシュ式電話機をお使いの場合



ISDN 回線や携帯電話／PHS をお使いになる場合

ダイヤル方法は、「トーン」です。

どうしても電話回線のダイヤル方法がわからない場合


ご契約の電話会社へ直接お問い合わせください。

なお、次のサービスをお使いの場合はうまく通信できないことがあります。

- ・ ホームテレホン
- ・ キャッチホン
- ・ ビジネスホン

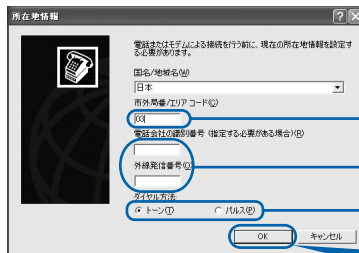
設定した市外局番や電話回線のダイヤル方法を変えたい場合

引っ越しなどで後から市外局番やダイヤル方法の設定を変えたいときは、次のように設定し直します。

1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
2. 「プリンタとその他のハードウェア」→「電話とモデムのオプション」の順にクリックします。
3. 「ダイヤル情報」タブの設定を変更します。
4. 「OK」をクリックします。
5. 「プリンタとその他のハードウェア」ウィンドウの  をクリックします。

33 正しく入力できているか確認し、「OK」をクリックします。

正しく入力されていないと、インターネットに接続できません。



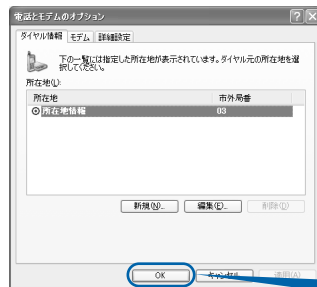
市外局番が入力されていることを確認します。

ここには通常、何も入力しません。

ダイヤル方法が正しく選択されていることを確認します。

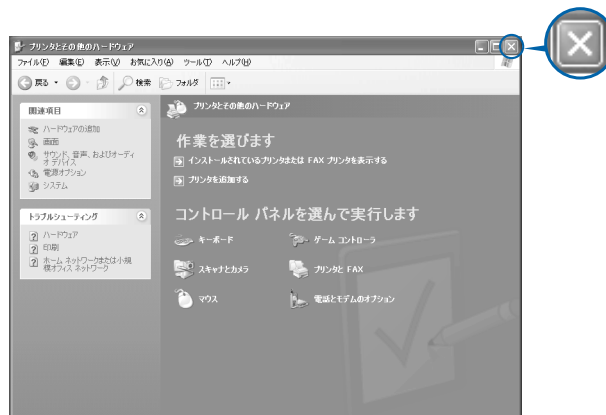
OK

34 「OK」をクリックします。



OK

35 「プリンタとその他のハードウェア」ウィンドウの [X] をクリックします。



これで Windows のセットアップは終わりです。

ホームサーバー機能内蔵の機種をお使いの方は、引き続き『ホームサーバー機能 取扱説明書』をご覧になり、ホームサーバー機能のセットアップを行ってください。

POINT

アプリケーションを起動するには

アプリケーションは、@メニューから起動してください（@メニューには、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」から起動できないアプリケーションも登録されています）。

詳しくは、『使いはじめガイド』→「FMV を使いはじめる前に知っておこう」→「パソコンでやってみたいことを「@メニュー」で調べる」をご覧ください。

続いて、電源の切り方と入れ方を覚えましょう（※▶P.53）。

ホームサーバー機能運用時について

ホームサーバー機能内蔵モデルでは、ホームサーバー機能を動作させるため、パソコン本体の電源には関係なく常にホームサーバー機能側の電源が入っています。

また、他のパソコンや外出先からのモバイルアクセスによってファミリーネットワークウェアを利用すると、パソコン本体側の機能を利用するために、ホームサーバー機能側から自動的にパソコン本体を起動させる場合があります。

2 電源の切り方と入れ方

電源の切り方と入れ方はとても重要です。正しい方法を覚えてください。



・ CD/DVD などを取り出す場合は、CD/DVD ドライブのトレーに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

4

電源を切る

お使いの機種によって、電源の切り方が異なります。

お使いの機種	電源の切り方
L70G/F をお使いの方	このページから始めます。
L70G、L50G、L70GN、L50GN をお使いの方	「ホームサーバー機能を内蔵していない機種の場合」(●▶P.59) をご覧ください。

ホームサーバー機能内蔵の機種の場合

通常は休止状態で運用します。このページからご覧ください。

電源ケーブルをコンセントから抜き、完全に電源を切りたい場合は、「電源ケーブルをコンセントから抜く場合」(●▶P.56) をご覧ください。

POINT

停電が予測されている場合は

ホームサーバー機能のシステム運用のため、休止状態にしてもパソコン本体の一部が動作しています。あらかじめ停電が予測されている場合は、完全に電源を切ってください。

■ 通常の運用の場合（電源ケーブルをコンセントから抜く必要がない場合）

1 それまで行っていた作業を終了します。

アプリケーションを起動している場合は、作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了します。

例えばワープロソフトを使って文書を作成中の場合は、文書データを保存し、ワープロソフトを終了します。

POINT

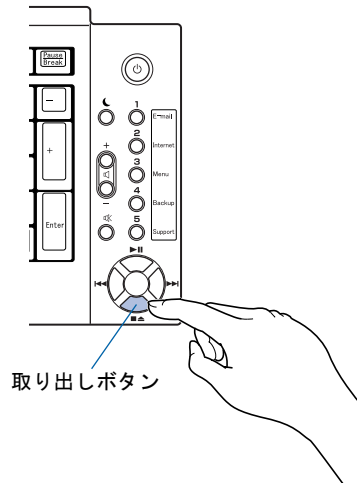
アプリケーションを終了しなかった場合

アプリケーションを起動したままこれ以降の操作を進めると、途中で作業中のデータを保存するか確認するメッセージが表示されることがあります。誤動作の原因となるので、あらかじめアプリケーションを終了してください。

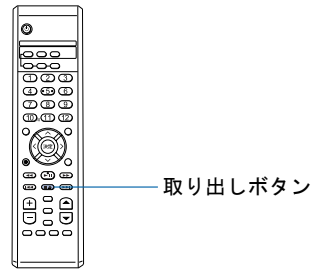
次のページへ

2 CD、DVDなどがセットされていたら、CD取り出しボタンの中央を押して取り出します。

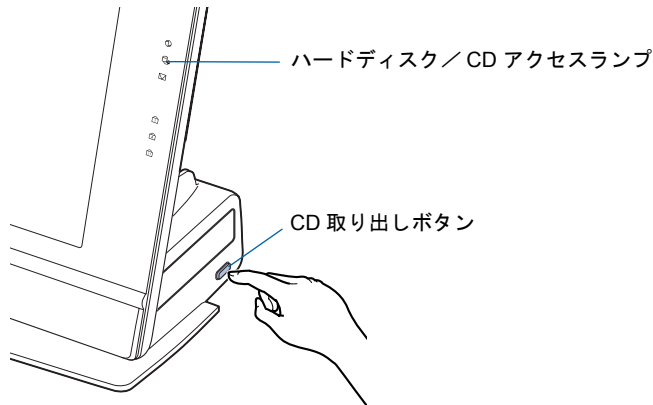
■ワイヤレスキーボードの場合



■リモコンの場合



■パソコン本体の場合



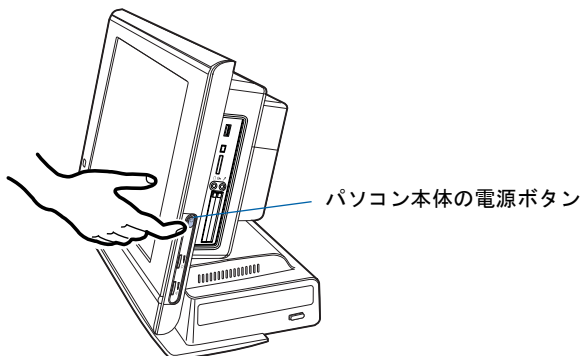
POINT

CDやDVDなどを入れたままだと

パソコンの電源を切ってしまうと、CDやDVDなどは取り出せません。

3 パソコン本体の電源ボタンを押します。

ただし、電源ボタンは4秒以上押し続けしないでください。電源ボタンを4秒以上押し続けると、Windowsなどの正常な終了処理ができないまま、強制的に電源が切れてしまいます。



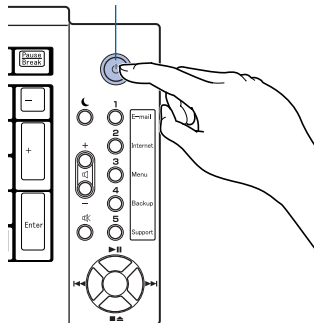
しばらくすると、Windowsが終了し、パソコン本体が休止状態になります。

POINT

電源を切る（休止状態にする）ときは

- ・ワイヤレスキーボードの電源ボタンでも電源を切る（休止状態にする）ことができます。
- ・リモコンの電源ボタンでも電源を切る（休止状態にする）ことができます。
リモコンの電源ボタンは約1秒間押ししてください。
「テレビを見る準備をする」(▶▶P.90)をご覧ください、リモコンの準備をしてから操作してください。

ワイヤレスキーボードの電源ボタン



リモコンの電源ボタン



次の方法でも休止状態にすることができます

1. 「スタート」ボタン→「終了オプション」の順にクリックします。
2. **[Shift]** を押し、「スタンバイ」が「休止状態」に変わったことを確認します。
3. そのまま **[Shift]** を押しながら「休止状態」をクリックします（このとき「電源を切る」をクリックしないようにしてください）。

しばらくするとWindowsが終了し、パソコン本体の電源が自動的に休止状態になります（画面が暗くなり、パソコン本体の電源ランプが消えます）。

休止状態のときに電源ケーブルを抜かないでください

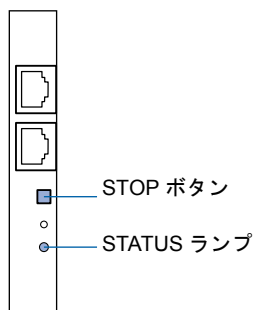
パソコン本体が休止状態のときに、電源ケーブルを抜かないようにしてください。休止状態にした後に電源ケーブルを抜く場合は、いったんパソコン本体の電源ボタンを押して電源を入れた後、「電源ケーブルをコンセントから抜く場合」(▶▶P.56)の手順1から操作を行ってください。

■ 電源ケーブルをコンセントから抜く場合

ホームサーバー機能のシステムを停止してから電源を切ります。次の手順に従ってください。

1 パソコン本体左側面の STOP ボタンを押します。

ただし、STOP ボタンは4秒以上押し続けしないでください。STOP ボタンを4秒以上押し続けると、ホームサーバー機能の正常な終了処理ができないまま、強制的にホームサーバー機能のシステムが再起動してしまいます。



ディスプレイ左側の Status ランプ、パソコン本体左側面の STATUS ランプが緑色に点滅します。





30秒ほどそのまま待ってハードディスク / CD アクセスランプが光らなくなるのを確認してください。



これでホームサーバー機能のシステムが停止しました。引き続き Windows を終了します。

POINT

次の方法でもホームサーバー機能のシステムを停止することができます

1. デスクトップの  (スタートページファミリーネットワークウェア) をクリックします。
「ファミリーネットワークウェア ログイン」画面が表示されます。
2. 「管理者」でログインします。
ニックネームの  をクリックして「管理者」を選択し、パスワードを入力して、「ログイン」をクリックします。
3. 「詳細設定」をクリックします。
 を数回クリックし、「詳細設定」を表示させ、クリックします。
4. 「システム停止」をクリックします。
5. 「停止」ボタンをクリックします。
ディスプレイ左側の Status ランプ、パソコン本体左側面の STATUS ランプが緑色に点滅します。
6. ウィンドウ右上にある  をクリックします。

2 「スタート」ボタンをクリックします。

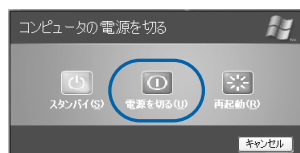


(これ以降の画面は、機種や状況により異なります)

3 「終了オプション」をクリックします。



4 「電源を切る」をクリックします。



しばらくすると Windows が終了し、パソコン本体の電源が自動的に切れます（画面が暗くなり、パソコン本体の電源ランプが消えます）。

POINT

電源が切れない場合

パソコンが動かなくなり（マウスやキーボードが操作できないなど）、電源が切れないときは、次のように操作してください。

[Ctrl] と **[Alt]** を押しながらか **[Delete]** を押してアプリケーションを強制終了し、その後で電源を切ってください。アプリケーションの強制終了については、『トラブル解決ガイド』→「Q & A 集」→「画面の表示がおかしい、操作ができないトラブル」→「Q 操作中に画面が動かなくなった」をご覧ください。

強制終了できないときは、パソコン本体の電源ボタンを 4 秒以上押し続けて強制的に電源を切ってください。

電源を切った後、パソコン本体の電源ランプが消えている（電源が切れている）ことを確認してください。電源ランプがオレンジ色に点灯しているときは、スタンバイ状態になっているため電源が切れていません。もう一度電源ボタンを 4 秒以上押し続けて電源を切ってください。

次のページへ

5 パソコン本体の電源が切れてから 1 ～ 2 分後に、電源ケーブルを、コンセントから抜きます。

ディスプレイ左側の Status ランプ、パソコン本体左側面の STATUS ランプが消えます。

重要

電源ケーブルを抜くときは

電源ケーブルをコンセントから抜くときは、先に電源プラグを抜いてからアース線を外してください。

POINT

ホームサーバー機能のシステム停止時は電源ケーブルを抜いてください

手順 1 (●▶P.56) でホームサーバー機能のシステムを停止した後は、必ず電源ケーブルをコンセントから抜いてください。

いったん電源ケーブルを抜かないと、電源を入れたときにホームサーバー機能のシステムが起動しません。

6 パソコンに接続されている機器の電源を切ります。

続いて、電源の入れ方を覚えましょう (●▶P.62)。

ホームサーバー機能を内蔵していない機種の場合

1 それまで行っていた作業を終了します。

アプリケーションを起動している場合は、作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了します。

例えばワープロソフトを使って文書を作成中の場合は、文書データを保存し、ワープロソフトを終了します。

POINT

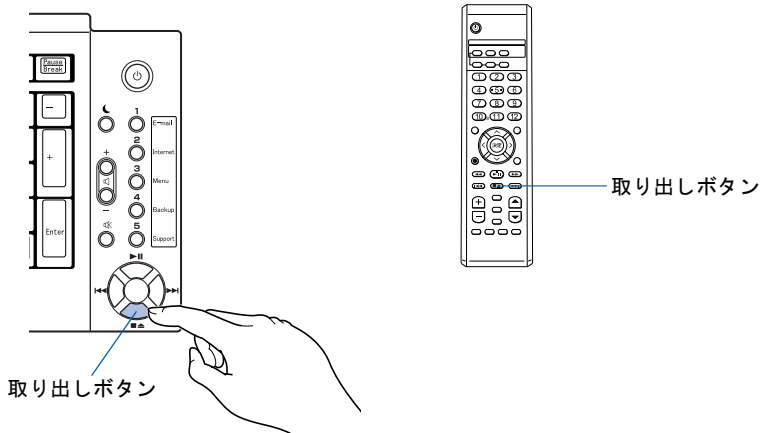
アプリケーションを終了しなかった場合

アプリケーションを起動したままでもこれ以降の操作を進められますが、途中で作業中のデータを保存するか確認するメッセージが表示されることがあります。誤動作の原因となるので、あらかじめアプリケーションを終了しておくことをお勧めします。

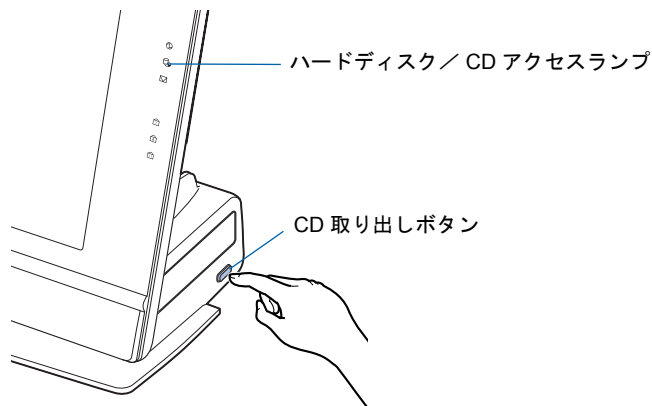
2 CD、DVDなどがセットされていたら、CD取り出しボタンの中央を押して取り出します。

■ワイヤレスキーボードの場合

■リモコンの場合



■パソコン本体の場合



POINT

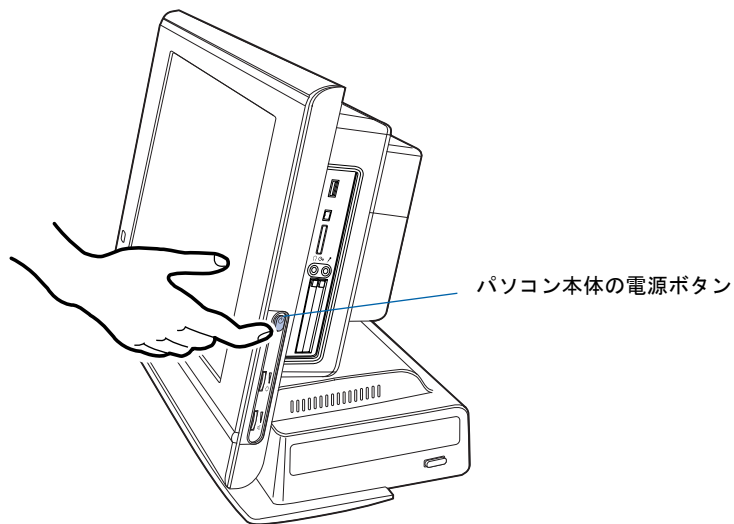
CDやDVDなどを入れたままだと

パソコンの電源を切ってしまうと、CDやDVDなどは取り出せません。

次のページへ

3 パソコン本体の電源ボタンを押します。

しばらくすると Windows が終了し、パソコン本体の電源が自動的に切れます（画面が暗くなり、パソコン本体の電源ランプが消えます）。



重要

電源ボタンは押し続けしないでください

電源ボタンを 4 秒以上押し続けると、Windows などの正常な終了処理ができないまま、強制的に電源が切れてしまいます。

POINT

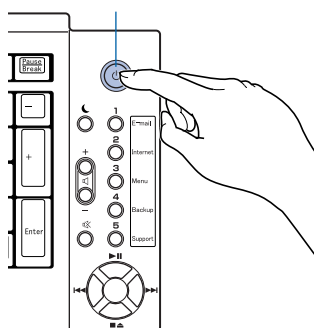
電源を切るときは

- ・ワイヤレスキーボードの電源ボタンでも電源を切ることができます。
- ・リモコンの電源ボタンでも電源を切ることができます。

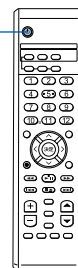
リモコンの電源ボタンは約 1 秒間押ししてください。

「テレビを見る準備をする」(▶P.90) をご覧になり、リモコンの準備をしてから操作してください。

ワイヤレスキーボードの電源ボタン



リモコンの電源ボタン




POINT**次の方法でも電源を切ることができます**

1. 「スタート」ボタン→「終了オプション」の順にクリックします。
2. 「電源を切る」をクリックします。
しばらくすると Windows が終了し、パソコン本体の電源が自動的に切れます（画面が暗くなり、パソコン本体の電源ランプが消えます）。

電源が切れない場合

パソコンが動かなくなり（マウスやキーボードが操作できないなど）、電源が切れないときは、次のように操作してください。

(Ctrl) と **(Alt)** を押しながら **(Delete)** を押してアプリケーションを強制終了し、その後で電源を切ってください。アプリケーションの強制終了については、『トラブル解決ガイド』→「Q & A 集」→「画面の表示がおかしい、操作ができないトラブル」→「Q 操作中に画面が動かなくなった」をご覧ください。

強制終了できないときは、パソコン本体の電源ボタンを 4 秒以上押し続けて強制的に電源を切ってください。

電源を切った後、パソコン本体の電源ランプが消えている（電源が切れている）ことを確認してください。電源ランプがオレンジ色に点灯しているときは、スタンバイ状態になっているため電源が切れていません。もう一度電源ボタンを 4 秒以上押し続けて電源を切ってください。

4 パソコンに接続されている機器の電源を切ります。

続いて、電源の入れ方を覚えましょう（[▶▶P.62](#)）。

電源を入れる

重要

電源を入れるときの注意

- ・電源を切った後は、次に電源を入れ直すまで 10 秒ほどお待ちください。

- 1 パソコンに接続されている機器の電源を入れます。
- 2 電源ケーブルがコンセントに接続されていない場合は、電源プラグをコンセントに差し込みます。

POINT

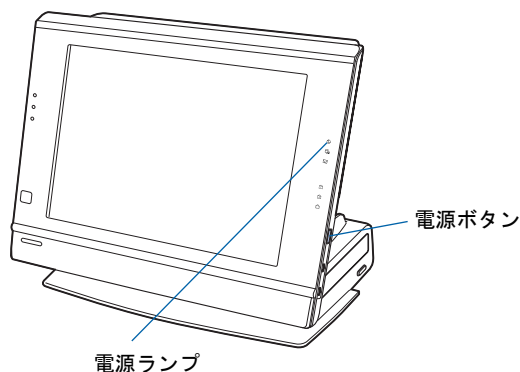
ホームサーバー機能内蔵の機種の場合

数秒間電源ランプが点灯し、(この後、ディスプレイ左側の Status ランプ、パソコン本体左側面の STATUS ランプがオレンジ色に点灯し続けます)、約 1 ~ 2 分後に自動的にパソコン本体の電源が入ります。

パソコン本体の電源ボタンを押す必要はありません。手順 4 へ進んでください。

- 3 パソコン本体の電源ボタンを押します。

パソコン本体の電源ランプが点灯し、画面にさまざまな文字などが表示されます。そのまま、しばらくお待ちください。

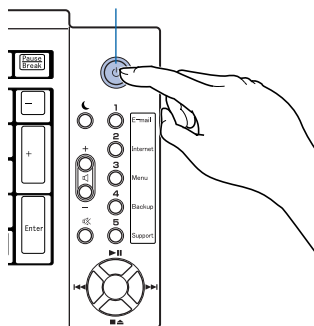


POINT

電源を入れるときは

- ・ワイヤレスキーボードの電源ボタンでも電源を入れることができます。
- ・リモコンの電源ボタンでも電源を入れることができます。
リモコンの電源ボタンは約1秒間押してください。
「テレビを見る準備をする」(▶▶P.90)をご覧ください、リモコンの準備をしてから操作してください。

ワイヤレスキーボードの電源ボタン



リモコンの
電源ボタン




4 このような画面が表示されたことを確認します。



(画面は機種や状況により異なります)

Windows が起動しない場合

電源を入れても Windows が起動しないときは、『トラブル解決ガイド』→「Q & A 集」→「電源が入らない、画面が表示できないトラブル」をご覧ください。

3 準備が完了したら

ここまでの作業が終わると、パソコンの準備は完了です。

パソコンの準備はすべて完了していますか？

これまで説明してきたパソコンの準備が、すべて完了しているか確認してください。再確認したい項目や、完了していない操作については、各参照先に戻って再度確認または操作してください。

1 「機種名を確認してください」 (●▶P.22)

お使いの機種によってマニュアルの読み方が異なります。

2 「使用上のお願い」 (●▶P.23)

このパソコンの取り扱いにあたっての、大切な注意事項です。確認してください。

3 「接続する」 (●▶P.27)

必要な機器が取り付けられているか、確認してください。

4 「初めて電源を入れる～Windows のセットアップ」 (●▶P.33)

初めて電源を入れたときに行う操作です。すべての操作を終えているか、確認してください。

5 「電源の切り方と入れ方」 (●▶P.53)

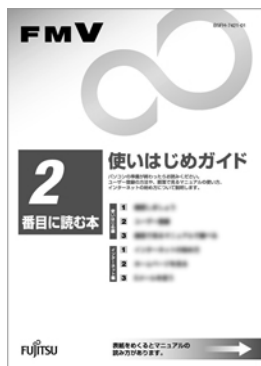
必ずこのマニュアルの手順に従って操作してください。

パソコンの準備が完了したら『使いはじめガイド』へ

パソコンの準備が完了したら『使いはじめガイド』をお読みください。このパソコンを使うための重要な情報や、インターネットの始め方などが紹介されています。

『使いはじめガイド』で紹介されている主な内容

第1章と第2章では、パソコンを使い始める前に確認していただきたいこと、覚えておくこと、わからないことがあったときの情報の探し方などを説明しています。



必ずお読みください

- 第1章 「FMV を使い始める前に知っておこう」
- 第2章 「マニュアルやサポートを使いこなそう」

目的に合わせてお読みください

- 第3章 「パソコンで通信をする準備」
- 第4章 「ユーザー登録をする」
- 第5章 「インターネットの始め方」
- 第6章 「ホームページを見る」
- 第7章 「Eメールを使う」
- 第8章 「バックアップする」
- 第9章 「パソコンの廃棄・リサイクルについて」

初めてインターネットに接続する前に

このパソコンの出荷後、お客様にご購入いただくまでの間にも、セキュリティの脆弱性が新たに見つかったり、悪質なウイルスが出現したりしている可能性があります。初めてインターネットに接続する前に、マニュアルの順に従って、パソコンを最新の状態にし、セキュリティ対策を行ってください。詳しくは『使いはじめガイド』→「FMV を使い始める前に知っておこう」→「セキュリティについて」をご覧ください。

ユーザー登録をする

ユーザー登録とは、FMV のユーザーとしてお客様の情報を弊社に登録していただくことを言います。ユーザー登録をしていただくと、さまざまなサービスをご利用いただけます。このパソコンでは、パソコンの画面上でユーザー登録ができます。ユーザー登録の詳しい操作方法については、『使いはじめガイド』→「ユーザー登録をする」をご覧ください。

パソコンの基本的な使い方を覚える

「パソコンを使うのは初めて」という方は、「パソコン入門」でパソコンの基本的な使い方を覚えましょう。「パソコン入門」では、文字の入力方法や Windows の操作方法など、パソコンを使う上で必要なことを楽しく練習しながら覚えることができます。「パソコン入門」の詳しい操作方法については、『使いはじめガイド』→「マニュアルやサポートを使いこなそう」をご覧ください。

この後の章では、周辺機器の接続／設定（▶P.68）や、仕様一覧（▶P.98）などが記載されています。目的に合わせてお読みください。

Memo

5

第 5 章

目的に合わせて接続／設定する

「周辺機器を取り付けたい」、「テレビを見たい」など、目的に合わせてお読みください。

1 周辺機器（メモリなど）を取り付ける	68
2 モジュラーケーブルを接続する	72
3 ホームサーバー機能を使う（L70G/F をお使いの方）	76
4 ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスについて	78
5 MyMedia を使う	89
6 テレビを見る準備をする	90

1 周辺機器（メモリなど）を取り付ける

ここでは、プリンタやメモリなどの周辺機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことなどを説明します。

POINT

周辺機器とは

プリンタ、デジタルカメラ、メモリなどの装置のことです。パソコンの各種コネクタに接続したり、パソコン本体内部に取り付けたりして、パソコンの機能を拡張したり、処理速度を高めたりできます。



- ・周辺機器の取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。電源を入れたまま、または電源プラグを接続したままだと、感電・火災または故障の原因となります。



- ・周辺機器のケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体および周辺機器が故障する原因となることがあります。
- ・周辺機器、および周辺機器のケーブルは、弊社純正品をお使いください。純正品以外の周辺機器、および周辺機器のケーブルをお使いになると、故障の原因となることがあります。

取り扱い上の注意

周辺機器を取り付けるときは、次のことに注意してください。

- ・ **周辺機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします**
純正品が用意されている周辺機器については、純正品以外を取り付けて、正常に動かなかったり、パソコンが故障しても、保証の対象外となります。
純正品が用意されていない周辺機器については、このパソコンに対応しているかどうかをお使いの周辺機器メーカーにご確認ください。
- ・ **Windows のセットアップは終了していますか？**
「初めて電源を入れる～ Windows のセットアップ」(●▶ P.33) をご覧になり、Windows のセットアップを行ってください。
なお、セットアップを行うときは周辺機器を取り付けないでください。セットアップが正常に行われないおそれがあります。

「FMVの使い方」をご覧ください

周辺機器の取り付け方は、「FMVの使い方」に記載されています。お使いになる周辺機器のマニュアルとあわせてご覧ください。

「FMVの使い方」は次の手順でご覧いただけます。

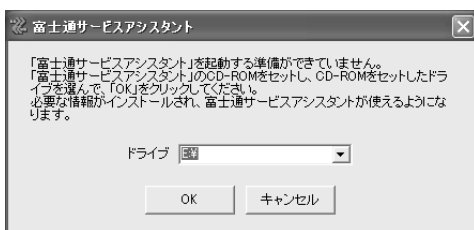
1 キーボードの「Support」ボタン（▶P.20）を押します。

サービスアシスタントが起動します。

POINT

「「富士通サービスアシスタント」を起動する準備ができていません。」というメッセージが表示されたときは

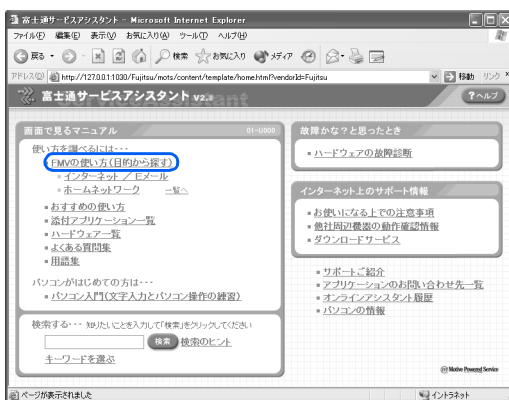
このパソコンに添付されている⑤「富士通サービスアシスタント」のCD-ROMをセットし、画面のメッセージに従ってインストールしてください。



初めて起動すると

初めてサービスアシスタントを起動したときは「インターネット接続ウィザード」が表示されます。P.46の手順23～24をご覧ください、操作を行ってください。

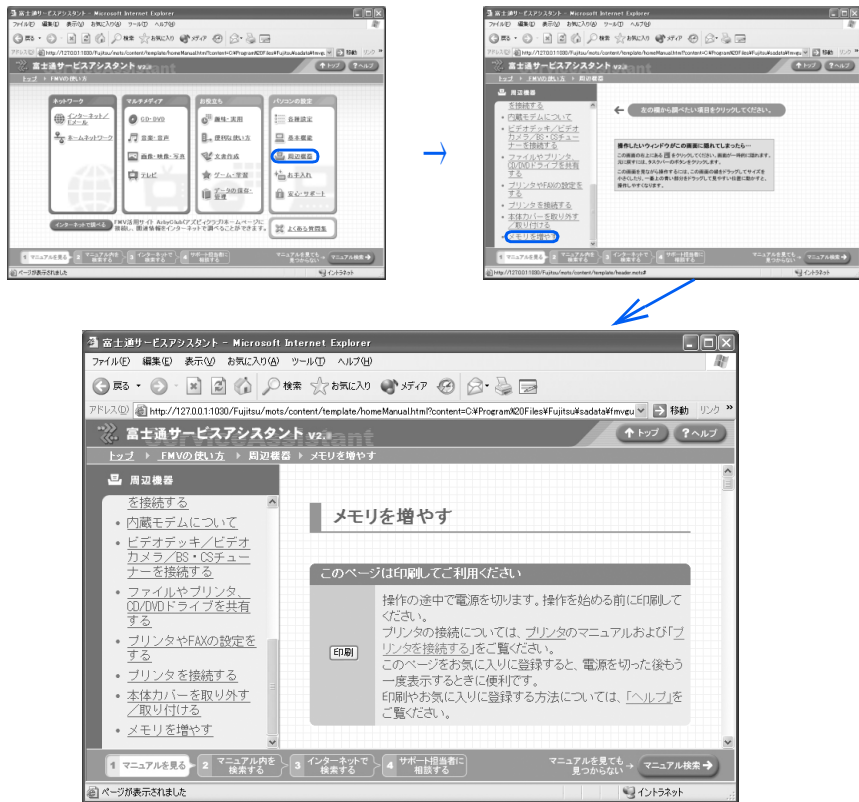
2 「FMVの使い方」をクリックします。



(これ以降の画面は、機種や状況により異なります)

3 「周辺機器」をクリックし、取り付けたい周辺機器を選択します。

例えば、メモリを取り付ける場合は、「周辺機器」→「メモリを増やす」の順にクリックします。



POINT


周辺機器によっては、印刷してご覧いただくものがあります

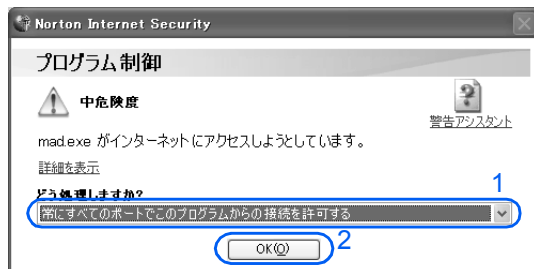
メモリや拡張カードなど、操作の途中で電源を切る必要のある周辺機器については、「FMVの使い方」の該当ページの先頭に「このページは印刷してご利用ください」と記載されています。操作を始める前に「FMVの使い方」をプリンタで印刷してご覧ください。


POINT

「mad.exe がインターネットにアクセスしようとしています。」または「jsharpde.exe がインターネットにアクセスしようとしています。」というメッセージが表示された場合

これらのウィンドウは、「Norton Internet Security」というアプリケーションの設定画面です。表示されたプログラム（mad.exe、jsharpde.exe）は、富士通サービスアシスタントで使われており、セキュリティ上の問題はありません。画面が表示された場合には、次の設定を行ってください。

1.  をクリックし、「常にすべてのポートでこのプログラムからの接続を許可する」をクリックします。
2. 「OK」をクリックします。



Norton Internet Security については、株式会社シマンテックにお問い合わせください。お問い合わせ窓口については、 『サポート & サービスのご案内』 → 「アプリケーションのお問い合わせ先一覧」をご覧ください。

2 モジュラーケーブルを接続する

ここでは、モジュラーケーブルを接続する方法を紹介します。

重要

セキュリティ対策をしてください

このパソコンの出荷後、お客様にご購入いただくまでの間にも、セキュリティの脆弱性が新たに見つかったり、悪質なウイルスが出現したりしている可能性があります。初めてインターネットに接続する前に、マニュアルの手順に従って、パソコンを最新の状態にし、セキュリティ対策を行ってください。

詳しくは『使いはじめガイド』→「FMV を使いはじめる前に知っておこう」→「セキュリティについて」をご覧ください。

確認する

モデム名

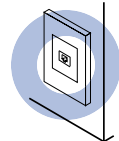
このパソコンの内蔵モデムは「Agere Systems AC'97 Modem」と表示されます。画面上でモデム名を選ぶ際は、このモデム名を選んでください。

電話回線の差し込み口

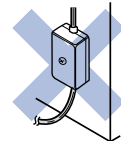
ローゼット式の場合は、モジュラー式の差し込み口への変更が必要です。

変更作業は、工事担当者またはその監督の下で行ってください。最寄りのNTTの営業所または支店へ変更工事を依頼することもできます。

モジュラー式



ローゼット式



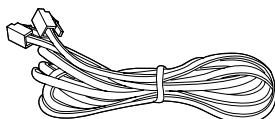
通信回線の種類

接続する前に、通信回線が一般の電話回線（アナログ）であることをNTTに確認してください。

必要なものを用意する

次のものを用意してください。

モジュラーケーブル（電話線）



接続する



- ・近くで落雷のおそれがある場合は、すべての接続作業を中止してください。落雷による感電の恐れがあります。



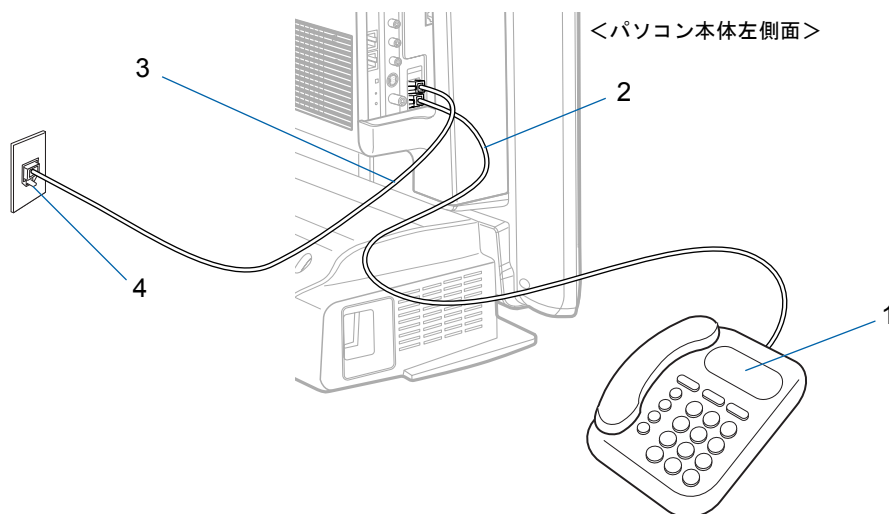
- ・電話回線の差し込み口（モジュラージャック）に指などを入れないでください。感電の原因となることがあります。



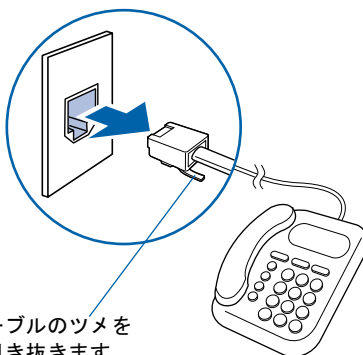
- ・モジュラーケーブルを接続する場合は、必ずモデムコネクタに接続してください。別のコネクタに接続すると故障の原因となる場合があります。

5

次の方法で添付のモジュラーケーブル（電話線）をパソコン本体に接続します。



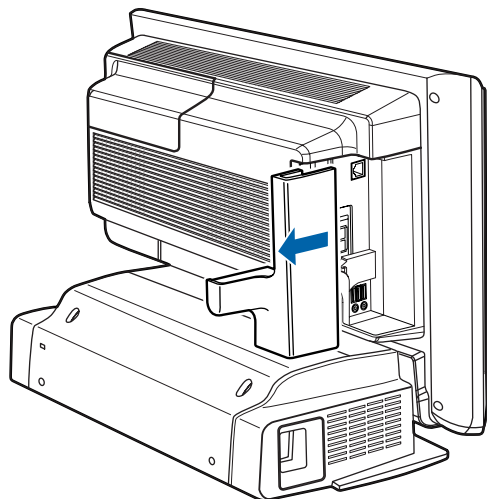
- 1 お使いになっている電話機のモジュラーケーブルを、電話回線の差し込み口から外します。



モジュラーケーブルのツメを押さながら引き抜きます。

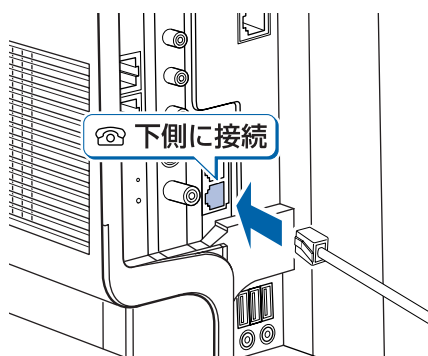
次のページへ

2 パソコン本体左側面のカバーを取り外します。



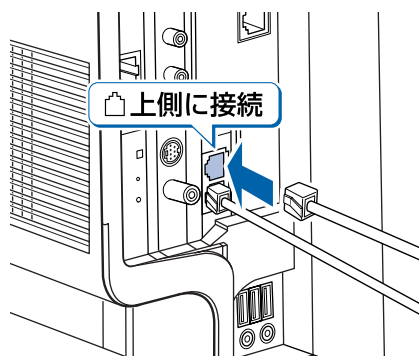
3 手順 1 で外したモジュラーケーブルをパソコン本体に接続します。

差し込み口の位置をよく確認し、カチッと音がするまで差し込んでください。

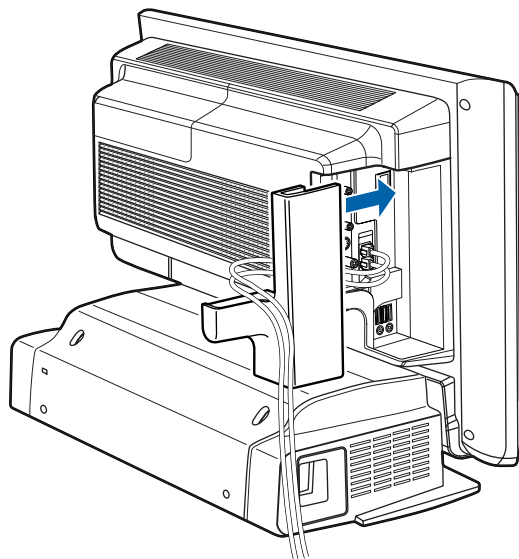


4 添付のモジュラーケーブルをパソコン本体に接続します。

差し込み口の位置をよく確認し、カチッと音がするまで差し込んでください。

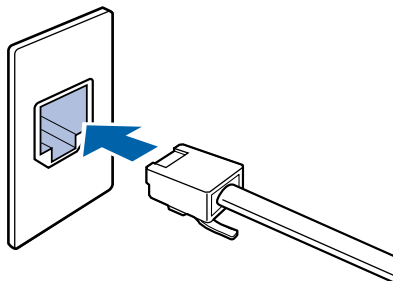


- 5** 手順 2 で外したカバーを取り付け、モジュラーケーブルを外に出します。
カバーを取り付ける際、ケーブルをはさまないようにしてください。



5


- 6** 添付のモジュラーケーブルを、電話回線の差し込み口に接続します。
手順 4 でパソコン本体に接続したモジュラーケーブルの反対側を差し込みます。



POINT

モジュラーケーブル使用上の注意

- ・モジュラーケーブルは家電製品などの近くを経由させたり束ねて利用したりすると、うまく通信できない場合があります。
- ・パソコンの設置場所が電話回線の差し込み口から遠く、添付のモジュラーケーブルでは長さが足りない場合は市販品をご購入ください。ただし、モジュラーケーブルを長くすると、回線速度が低下したり、うまく通信できないことがあります。

インターネットについては、 (サービスアシスタント) のトップ画面→「インターネット / Eメール」をご覧ください。

3 ホームサーバー機能を使う（L70G/Fをお使いの方）

ホームサーバー機能について

L70G/Fには、ホームサーバー機能が内蔵されています。ホームサーバー機能には、複数のパソコンをインターネットに接続するためのルータ機能や、家族がコミュニケーションするためのアプリケーションが搭載されています。

家庭内の複数のパソコンをつないで、次のようなホームネットワークを構築できます。

- ・ **家族とコミュニケーションする**

「ファミリーネットワークウェア」というアプリケーションを利用して、家族のスケジュールを見たり、伝言を書き込んだりできます。また、思い出の写真など家族の記録をいつでも見ることができます。

- ・ **インターネット接続を共有する**

家庭内の複数台のパソコンでインターネット接続を共有できます。

- ・ **ファイルを共有する**

家族で使うファイルを本装置のハードディスクに保存できます。

- ・ **外出先からアクセスする**

外出先から携帯電話、PDA、パソコンを使って、自宅にある本パソコンにアクセスし、家族のスケジュールを見たり、伝言を書き込んだり、公開しているファイルを見たりできます。また、留守番カメラ機能を使用したり、テレビの番組予約もできます。

- ・ **メールを素早くチェックする**

外出先から本装置にアクセスしているときは、「ファミリーネットワークウェア」の機能である「お手軽メールチェッカー」でメールの内容を参照できます。メールソフトを起動しなくても、ブラウザで手軽に新着メールを読むことができます。


Windows のセットアップが終わったら『ホームサーバー機能 取扱説明書』へ

ホームサーバー機能には、次のマニュアルがあります。必要に応じてご覧ください。

- ・『ホームサーバー機能 取扱説明書』（本のマニュアル）
ホームサーバー機能のセットアップやリカバリ方法、Q&A などが記載されています。
- ・「ホームサーバー機能 使い方ガイド」（HTML マニュアル）
- ・「ホームサーバー機能 管理者ガイド」（HTML マニュアル）
操作方法がわからないとき、どんな機能があるのか知りたいときにご覧ください。

HTML マニュアルの開き方

5

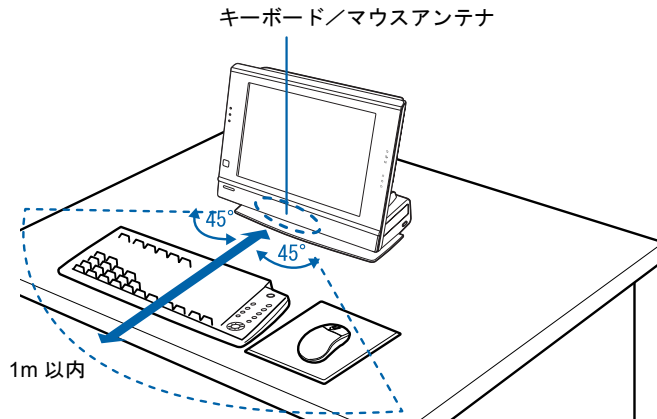
- 1**  (サービスアシスタント) のトップ画面 → 「FMV の使い方」 → 「基本機能」 → 「ホームサーバー機能を使う / LAN を使う」の順にクリックします。
- 2** 参照したいマニュアル名称をクリックします。
マニュアルが表示されます。

4 ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスについて

使用に適した配置

ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスは、次のような場所でお使いください。
なお、ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスは、無線でパソコンに信号を送ります。
信号を受けるキーボード/マウスアンテナは、パソコン本体に内蔵されています。

- ・机の上など平らで安定した場所
- ・パソコン本体と同じくらいの高さで、操作に十分なスペースが取れる場所
- ・パソコン本体から 1m 以内、左右約 45 度の範囲

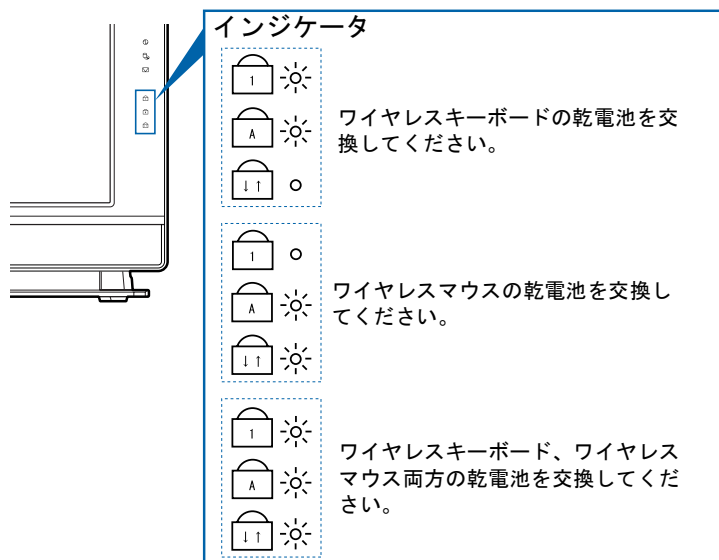


乾電池について

このパソコンに添付されているワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスの乾電池について説明します。

乾電池をお使いになる際は、「安全上のご注意」→「乾電池について」(●▶P.12) も必ずご覧ください。

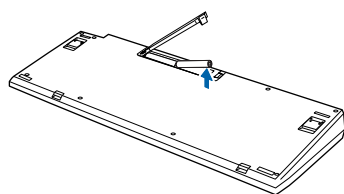
- ・ご購入時に添付されている乾電池は初期動作確認用です。
すぐに寿命に達する場合がありますので、お早めに新しい乾電池に交換してください。
- ・乾電池の寿命の目安は、毎日2時間の使用で、ワイヤレスキーボードは約1年、ワイヤレスマウスは約6ヶ月です。
ただし、使用状況によっては、この期間に満たないで寿命に達する場合があります。
乾電池の交換時には、ワイヤレスキーボードは単3型、ワイヤレスマウスは単4型の市販のアルカリ乾電池2本をご使用ください。
- ・必ずアルカリ乾電池をお使いください。
アルカリ乾電池以外の乾電池(マンガン乾電池、充電式乾電池など)をお使いになると、十分な機能・性能で動作しない場合があります。
- ・パソコンを操作していないときは、なるべく動かさないようにしてください。
パソコン本体の電源が入っていても、ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスが動作していると乾電池が消費されます。また、ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスの上に物を載せたままにしないようにご注意ください。
- ・ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスをお使いになっているときに乾電池が消耗すると、パソコン本体のインジケータが点滅します。
次のイラストをご覧ください。インジケータの点滅のしかたにより、どちらの乾電池を交換する必要があるのかがわかります。
乾電池が消耗すると、ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスの動作が不安定になります。
お早めに新しい乾電池と交換してください。



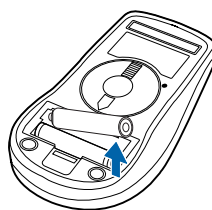
乾電池の交換方法

- 1 ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスを裏返して電池ボックスを開け、乾電池を取り出します。

■ ワイヤレスキーボード

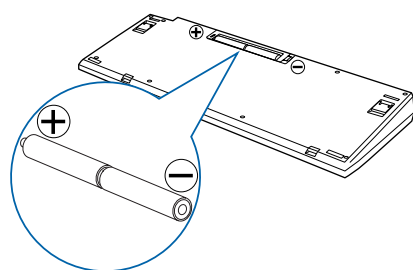


■ ワイヤレスマウス

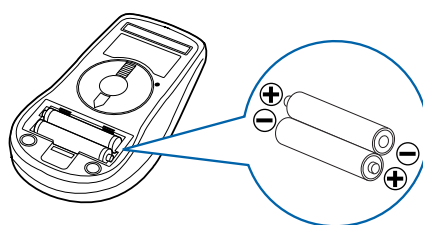


- 2 新しい乾電池を入れます。

■ ワイヤレスキーボード

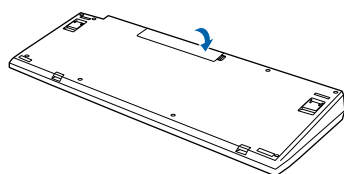


■ ワイヤレスマウス

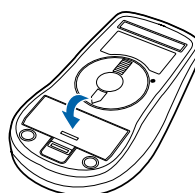


- 3 電池ボックスを閉めます。

■ ワイヤレスキーボード



■ ワイヤレスマウス



POINT

乾電池の使用推奨期限を確認してください

乾電池が使用推奨期限を過ぎていないか、確認してお使いください。

重要

乾電池の交換などで乾電池を抜くと、通信周波数は「チャンネルA」、ID設定値は「ID0（ゼロ）」になります

もう一度通信周波数、ID設定値を変更してください（●▶P.81）。

通信周波数／ID 設定値について

このパソコンに添付されているワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスの通信周波数（チャンネル）／ID 設定値の変更方法について説明します。

重要

設定をする前に確認してください

- ・「使用上のお願ひ」（●▶P.23）をご覧になり、パソコンを設置している環境を確認してください。
- ・パソコン本体の電源を入れた状態で設定してください。電源が入っていないときや、省電力機能が働いているときは設定することはできません。

通信周波数（チャンネル）／ID 設定値を合わせてください

ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスは、キーボード／マウスアンテナ（パソコン本体に内蔵）と通信するために、それぞれ2つの通信周波数（チャンネル）を備えており、さらにそれぞれの通信周波数（チャンネル）に対して16個のIDを備えています。

ワイヤレスキーボード

チャンネル A: ID0 ~ ID15

チャンネル B: ID0 ~ ID15

ワイヤレスマウス

チャンネル A: ID0 ~ ID15

チャンネル B: ID0 ~ ID15

通信周波数（チャンネル）／ID 設定値はパソコン本体、ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウスがそれぞれに記憶しています。パソコン本体とワイヤレスキーボード、パソコン本体とワイヤレスマウスのID 設定値がそれぞれ一致しないと、正しく動作しません。

記憶されている通信周波数／ID 設定値を忘れてしまった場合は、パソコン本体、ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウスすべてをリセットして、初期値（チャンネル A／ID0（ゼロ））にしてください。

その際、例えばワイヤレスキーボードの通信周波数（チャンネル）／ID 設定値だけをリセットしても、パソコン本体、ワイヤレスマウスの設定値はリセットされません。リセットする場合は、パソコン本体、ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウスすべての設定値をリセットしてください。

ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスは同じ通信周波数（チャンネル）に設定してください

ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスの通信周波数（チャンネル）は同じ設定にしてください。同じ設定になっていないと、ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスを同時に使用できません（ID は異なっている場合でも動作します）。

乾電池の交換などで乾電池を抜くと、通信周波数は「チャンネル A」、ID 設定値は「ID0（ゼロ）」になります

もう一度、通信周波数、ID 設定値を変更してください。（●▶P.81）

複数のワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスの同時使用について

ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスが標準添付となっているパソコンを複数台で同時に使用する場合は、パソコン同士の混信を避けるために、隣接するパソコンごとに通信周波数（チャンネル）を変えてお使いください。

それでも影響がある場合は、目安としてパソコン同士を2m以上離して設置してください。

通信周波数（チャンネル）／ID 設定中は、他のパソコンを操作しないでください

通信周波数（チャンネル）／ID 設定値を設定するときは、1台ずつ行ってください。違う通信周波数（チャンネル）／ID に設定され、混信するおそれがあります。

ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスが使えなくなったとき、または混信するときには、次の手順に従って通信周波数（チャンネル）／ID 設定値を変更してください。

■ 1 台だけでお使いになる場合

ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスを使用しているパソコンが近くにはない場合は、混信の心配がないため、初期値（チャンネル A / ID0（ゼロ））のままお使いいただけます。通信周波数／ID を設定する必要はありません。ただし、何らかの原因で使えなくなった場合のみ、「1 通信周波数／ID をリセットする」（●▶P.83）をご覧になり、設定情報をリセットして初期値（チャンネル A / ID0（ゼロ））に戻してください。

■ 近接して 2 台でお使いになる場合

ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスを使用しているパソコンを近くで 2 台使う場合は、次の手順に従って 2 台のうち 1 台のチャンネルを B に変更してください。もう 1 台は、初期値（チャンネル A）でお使いください。

1 「1 通信周波数／ID をリセットする」（●▶P.83）

通信周波数／ID をリセットします。

2 「2 新しい通信周波数（チャンネル）／ID を設定する」（●▶P.85）

2 台のうち 1 台の通信周波数をチャンネル B に変更します。

■ 近接して 3 台以上でお使いになる場合

ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスを使用しているパソコンを近くで 3 台以上使う場合は、次の手順に従って各パソコンの通信周波数／ID 設定値が異なるように設定してください。

1 「1 通信周波数／ID をリセットする」（●▶P.83）

通信周波数／ID をリセットします。

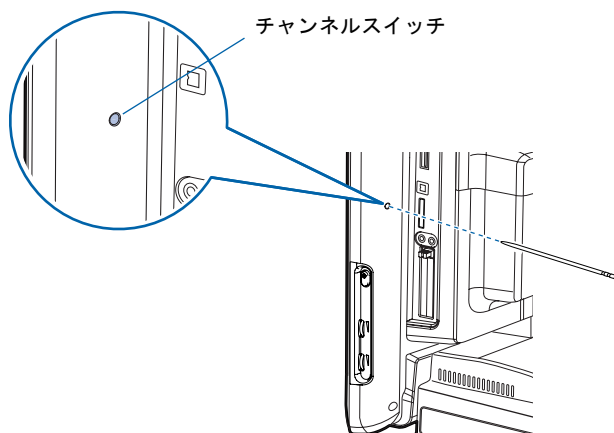
2 「2 新しい通信周波数（チャンネル）／ID を設定する」（●▶P.85）

各パソコンの通信周波数／ID 設定値を変更します。

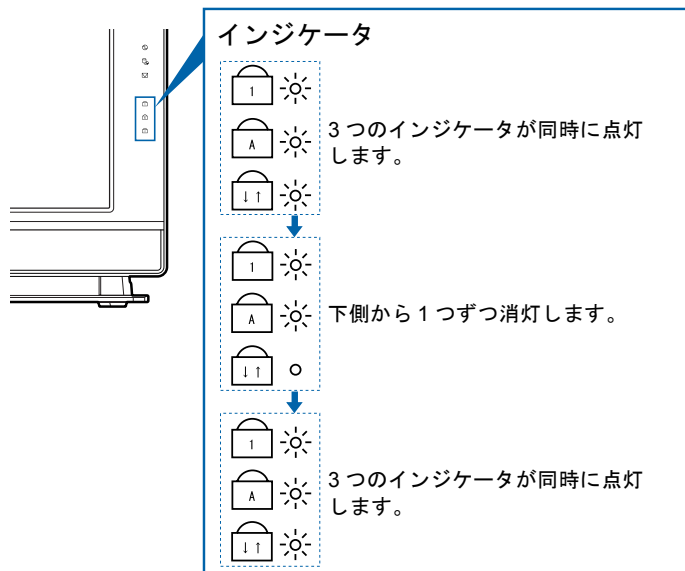
1 通信周波数／ID をリセットする

- 1 インジケータ（下図参照）の状態を紙に書き留めておいてください。
リセット完了時に、インジケータの状態を確認する必要があります。
- 2 パソコン本体背面のチャンネルスイッチを3つのインジケータが同時に点灯するまで押し続けます（約5秒間）。

電気を通さない細い棒状のもの（つま楊枝など）を、まっすぐに差し込んでください。
パソコン本体に記憶されているワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウス両方の通信周波数／ID 設定値がリセットされ、初期値（チャンネル A / ID0（ゼロ））になります。



パソコン本体前面の3つのインジケータが次のように点滅します。

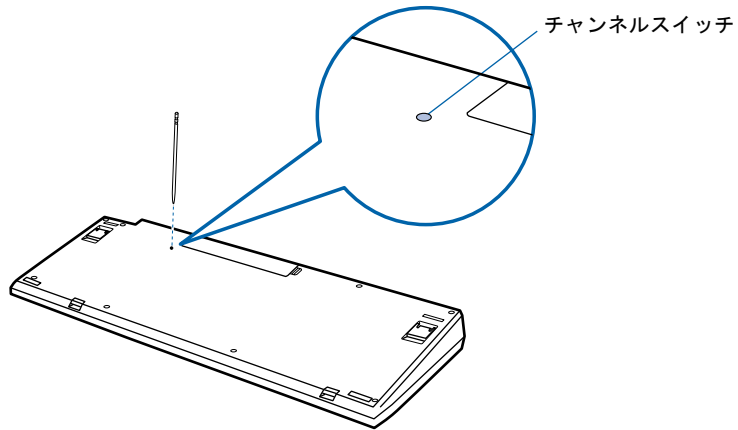


3つのインジケータが同時に点灯したら、電気を通さない細い棒状のもの（つま楊枝など）をチャンネルスイッチから離してください。

その後、インジケータが2回点滅し、手順1（●▶P.83）で確認した状態に戻れば、正しくリセットされたことになります。

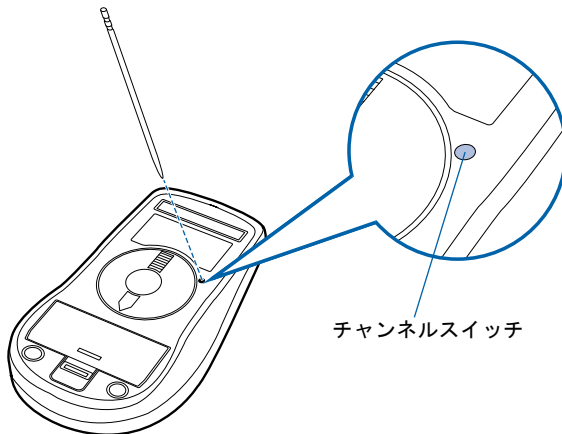
うまくいかなかったときは、もう一度この操作を行ってください。

- 3** ワイヤレスキーボード裏面のチャンネルスイッチを 10 秒以上押し続けます。
電気を通さない細い棒状のもの（つま楊枝など）を、まっすぐに差し込んでください。



ワイヤレスキーボードに記憶されているキーボードの通信周波数／ID 設定値がリセットされ、初期値（チャンネル A / ID0（ゼロ））になります。

- 4** ワイヤレスマウス裏面のチャンネルスイッチを 10 秒以上押し続けます。
電気を通さない細い棒状のもの（つま楊枝など）を、まっすぐに差し込んでください。



ワイヤレスマウスに記憶されているマウスの通信周波数／ID 設定値がリセットされ、初期値（チャンネル A / ID0（ゼロ））になります。


2 新しい通信周波数（チャンネル）／IDを設定する

ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウスの通信周波数（チャンネル）／IDはパソコン本体がID設定モードになっている20秒間に記憶されます。ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウスのチャンネルスイッチを1回押すとID1が設定され、2回押すとID2が、というようにスイッチを押した回数によりID設定値が変わり、ID15まで選択できます。ID15の次はID0（ゼロ）に戻ります。初期状態ではID0（ゼロ）が設定されています。

また、通信周波数（チャンネル）をチャンネルAにするかBにするかにより、操作方法が異なります。

ワイヤレスキーボード

チャンネルA：チャンネルスイッチを押すことにより、ID1, ID2・・・と変更

チャンネルB：ワイヤレスキーボードの （スペースキー）を押しながらチャンネルスイッチを押すことにより、ID1, ID2・・・と変更

ワイヤレスマウス

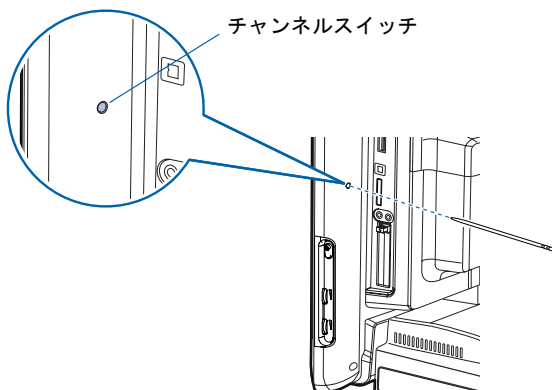
チャンネルA：チャンネルスイッチを押すことにより、ID1, ID2・・・と変更

チャンネルB：ワイヤレスマウスの右ボタンを押しながらチャンネルスイッチを押すことにより、ID1, ID2・・・と変更

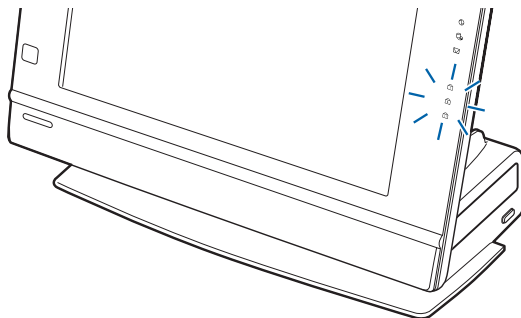
■ ワイヤレスキーボードの通信周波数（チャンネル）／IDを設定する

1 パソコン本体背面のチャンネルスイッチを1回押します。

電気を通さない細い棒状のもの（つま楊枝など）を、まっすぐに差し込んでください。このとき4秒以上ボタンを押し続けしないでください。




ID設定モードになり、パソコン本体の3つのインジケータが約20秒間、上から順番に点滅を開始します。



次のページへ

2 ワイヤレスキーボードを裏返しにし、電池ボックス側をパソコン本体に向けて手に持ちます。

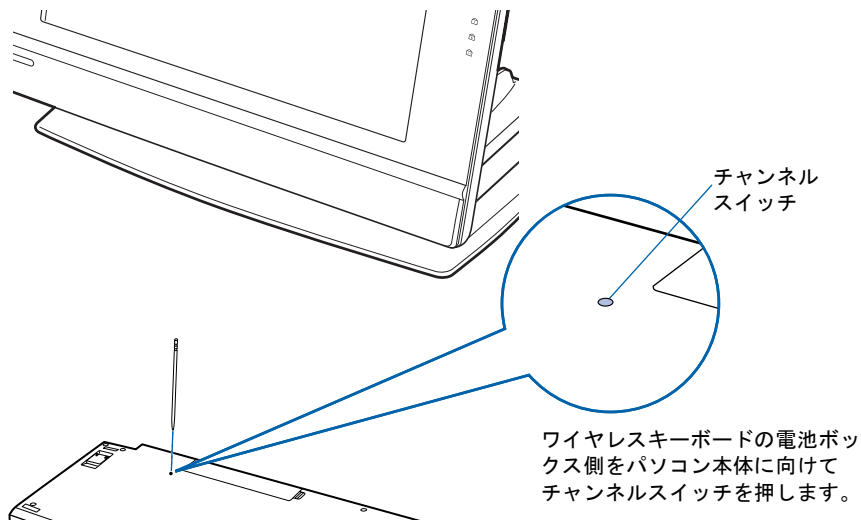
このとき、ワイヤレスキーボードのキーを押さないように持ってください。

チャンネル B に設定する場合は、ワイヤレスキーボードの  の位置を確認しておきます。

3 インジケータが上から順番に点滅している間に、ワイヤレスキーボードの裏面のチャンネルスイッチを設定したい回数押します。

電気を通さない細い棒状のもの（つま楊枝など）を、まっすぐに差し込んでください。


このとき 4 秒以上ボタンを押し続けしないでください。



(例)


初期値 (ID0 (ゼロ)) の状態から ID5 に設定する場合→チャンネルスイッチを 5 回押します。


ID3 の状態から ID10 に設定する場合→チャンネルスイッチを 7 回押します。


チャンネル B に設定する場合は、ワイヤレスキーボードの  を押しながら、チャンネルスイッチを設定したい回数押します。

なお、チャンネルを変更しても、ID の値は引き継がれます。

(例)

チャンネル A / ID3 の状態から、 を押しながらチャンネルスイッチを 7 回押す
→チャンネル B / ID10 に設定されます。

チャンネル B / ID13 の状態から、 を押さずにチャンネルスイッチを 4 回押す
→チャンネル A / ID1 に設定されます。

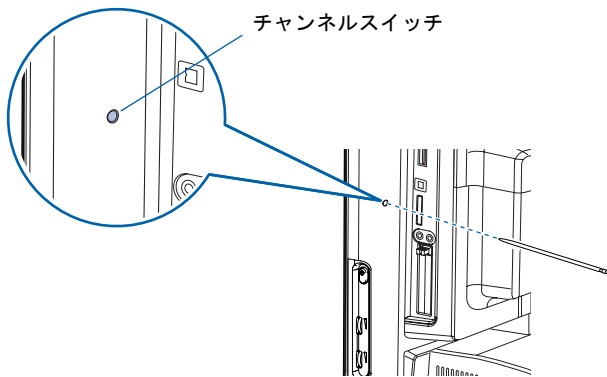
正しく受信したときは、約 1 秒後に 3 つのインジケータが同時に点滅し、通信周波数 (チャンネル) / ID が記憶されます。チャンネル B に設定した場合は、このインジケータの点滅が終わるまで  を押し続けてください。

設定後もワイヤレスキーボードが正しく動作しないときは、正しく設定できていない可能性があります。「1 通信周波数 / ID をリセットする」 (**▶P.83) からもう一度設定を行ってください。

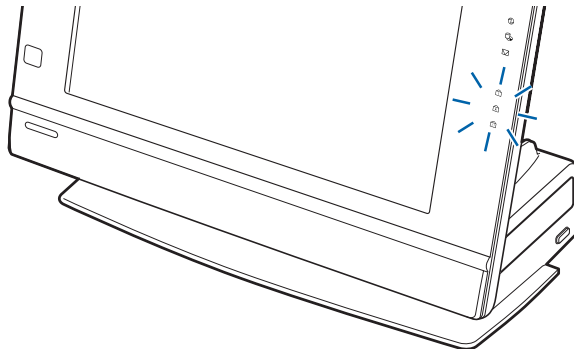
■ ワイヤレスマウスの通信周波数（チャンネル） / ID を設定する

1 パソコン本体背面のチャンネルスイッチを 1 回押します。

電気を通さない細い棒状のもの（つま楊枝など）を、まっすぐに差し込んでください。
このとき 4 秒以上ボタンを押し続けしないでください。



ID 設定モードになり、パソコン本体の 3 つのインジケータが約 20 秒間、上から順番に点滅を開始します。

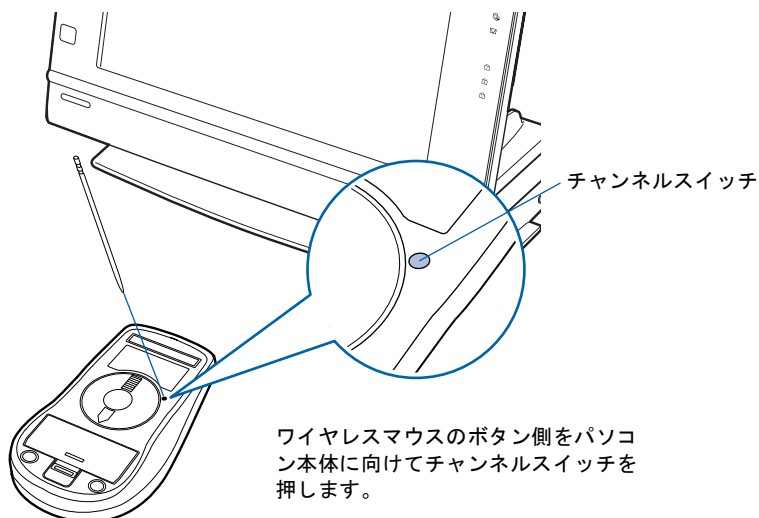


2 ワイヤレスマウスを裏返しにし、ボタン側をパソコン本体に向けて手に持ちます。

このとき、ワイヤレスマウスのボタンなどを押さないように持ってください。
チャンネル B に設定する場合は、ワイヤレスマウスの右ボタンの位置を確認しておきます。

3 インジケータが上から順番に点滅している間に、ワイヤレスマウス裏面のチャンネルスイッチを設定したい回数押します。

電気を通さない細い棒状のもの（つま楊枝など）を、まっすぐに差し込んでください。このとき4秒以上ボタンを押し続けしないでください。



(例)

初期値 (ID0 (ゼロ)) の状態から ID5 に設定する場合→チャンネルスイッチを5回押します。
ID3 の状態から ID10 に設定する場合→チャンネルスイッチを7回押します。

チャンネル B に設定する場合は、ワイヤレスマウスの右ボタンを押しながら、チャンネルスイッチを設定したい回数押します。

なお、チャンネルを変更しても、ID の値は引き継がれます。

(例)

チャンネル A / ID3 の状態から、右ボタンを押しながらチャンネルスイッチを7回押す
→チャンネル B / ID10 に設定されます。
チャンネル B / ID13 の状態から、右ボタンを押さずにチャンネルスイッチを4回押す
→チャンネル A / ID1 に設定されます。

正しく受信したときは、約1秒後に3つのインジケータが同時に点滅し、通信周波数（チャンネル）/ ID が記憶されます。チャンネル B に設定した場合は、このインジケータの点滅が終わるまで右ボタンを押し続けてください。

設定後もワイヤレスマウスが正しく動作しないときは、正しく設定できていない可能性があります。「1 通信周波数 / ID をリセットする」 (**▶P.83) からもう一度設定を行ってください。

5 MyMedia を使う

「MyMedia」は、音楽 CD や音楽ファイルの再生、画像や動画の再生を行うことができるアプリケーションです。リモコンが添付されている機種の場合、キーボードやマウスでの操作の他に、リモコンを使用して離れたところから操作することもできます。



(この画面は、機種や状況により異なります)



重要

「MyMedia」を使う前に

- ・「MyMedia」のアップデートを行ってください。「MyMedia」1.1 版および Readme が、「アプリケーションディスク 2」の ¥update¥MyMedia にあります。
- ・☎(サービスアシスタント) のトップ画面→「添付アプリケーション一覧」→「MyMedia」→「重要」→「MyMedia」を使うときの注意」をご覧ください。「MyMedia」を使用する上での注意事項が記載されています。

他のパソコンにファイルを公開する

ネットワークにつながった他のパソコンにも「MyMedia」がインストールされていれば、音楽、画像、動画などを公開してお互いのパソコンで見たり聞いたりすることができます。他のパソコンとネットワークを組む方法については、次のマニュアルをご覧ください。

- ・L70G/F をお使いの方は、☎(サービスアシスタント) のトップ画面→「FMV の使い方」→「基本機能」→「ホームサーバー機能を使う／LAN を使う」をご覧ください。
- ・L70G、L50G、L70GN、L50GN をお使いの方は、☎(サービスアシスタント) のトップ画面→「FMV の使い方」→「基本機能」→「LAN を使う」をご覧ください。



重要

セキュリティ対策をしてください

このパソコンの出荷後、お客様にご購入いただくまでの間にも、セキュリティの脆弱性が新たに見つかったり、悪質なウイルスが出現したりしている可能性があります。初めてインターネットに接続する前に、マニュアルの手順に従って、パソコンを最新の状態にし、セキュリティ対策を行ってください。詳しくは『使いはじめガイド』→「FMV を使いはじめる前に知っておこう」→「セキュリティについて」をご覧ください。

公開する音楽、画像、動画ファイルを設定する

自分のパソコンの音楽、画像、動画ファイルをネットワーク上にある他のパソコンに公開するには、公開するフォルダの設定や、フォルダを公開するパソコンを設定する必要があります。それぞれの設定方法については、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「MyMedia」→「Manual」をご覧ください。

6 テレビを見る準備をする

ここでは、初めてテレビを見るときに行う準備について説明します。

準備の流れ

初めてテレビを見るときは、次の作業が必要です。

- 1 「リモコンを準備する」▶P.91
- 2 「アンテナケーブルを接続する」▶P.93
- 3 「チャンネルを設定する」▶ (サービスアシスタント) のトップ画面 → 「FMVの使い方」 → 「テレビ」 → 「チャンネルを設定する」

必要なものを用意する

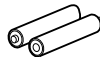
次のものを用意してください

■ リモコン



(イラストは機種や状況により異なります)

■ 単3マンガン乾電池×2



👉 重要

添付のリモコンを使用してください

本製品に添付のリモコンを使用して操作してください。

アンテナケーブル類は添付していません

アンテナケーブル、変換コネクタ、V/U ミキサ、中継コネクタなどは添付していません。市販のものをご購入ください。また、ケーブルは適切な長さのものをご購入ください。アンテナ設置については、最寄りの電器店にお問い合わせください。

アンテナを接続するときはパソコンの電源を切ってください

パソコンの電源を切ってから、アンテナケーブルを接続してください。

リモコンを準備する

ここでは、リモコンを使用するための準備について説明します。

リモコンに乾電池を入れる



・乾電池を入れる場合、+（プラス）と-（マイナス）の向きに注意し、表示どおりに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

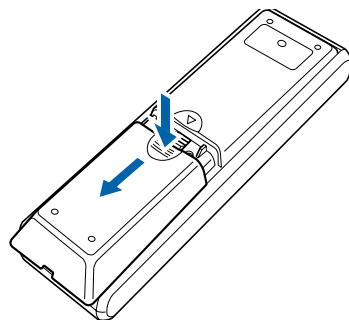
乾電池をお使いになる際は、「安全上のご注意」→「乾電池について」（▶P.12）も必ずご覧ください。



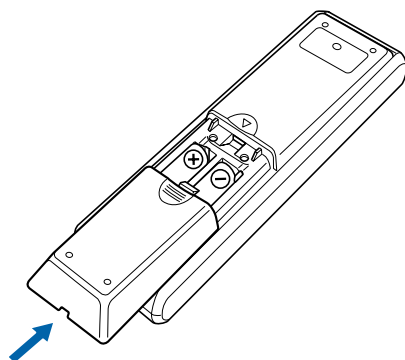
ご購入時に添付されている乾電池はお早めに交換してください

ご購入時に添付されている乾電池は初期動作確認用です。すぐに寿命に達する場合がありますので、お早めに新しい乾電池に交換してください。

- 1 リモコンを裏返して電池のふたを開け、添付のマンガン乾電池を入れます。





- 2 電池のふたを閉めます。



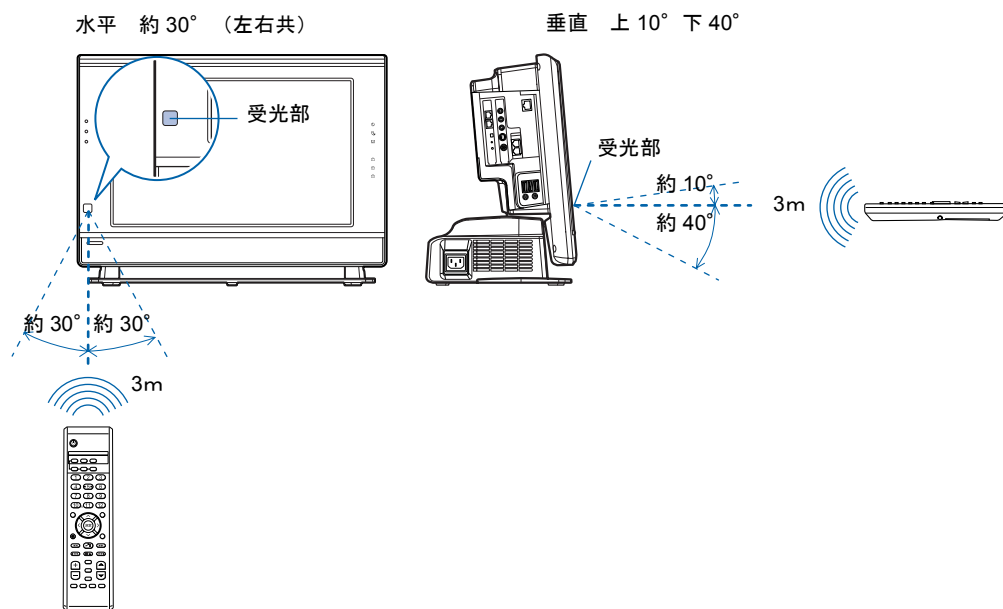
リモコンをお使いになる場合の注意


リモコンをお使いになる場合は、以下の点にご注意ください。

- ・リモコンをお使いになる場合には、リモコンマネージャーが起動している必要があります。画面右下の通知領域に (リモコンマネージャー) が表示されているか、確認してください。リモコンマネージャーについては、 (サービスアシスタント) のトップ画面→「添付アプリケーション一覧」→「リモコンマネージャー」をご覧ください。
- ・信号が受けやすいように、リモコンをパソコン本体の受光部に向けてください。
- ・パソコン本体の受光部とリモコンの間に障害物がない場所に設置してください。
- ・直射日光などの強い光があたる場所での使用は避けてください。使用距離が短くなる場合があります。
- ・リモコンをプラズマディスプレイ／プラズマテレビの近くでお使いになると、リモコンが正常に動作しないことがあります。これはプラズマディスプレイ／プラズマテレビから放射される赤外線により、リモコンとパソコン本体の受光部との通信が妨害されるために起こる現象です。

このようなときは、パソコン本体またはプラズマディスプレイ／プラズマテレビの設置場所を変更してください。

パソコン本体のリモコン受光部使用可能範囲



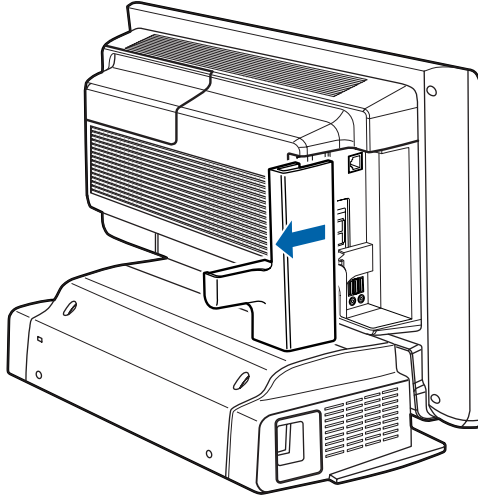
リモコンでできることについては、 (サービスアシスタント) のトップ画面→「FMV の使い方」→「テレビ」→「リモコンについて」をご覧ください。

アンテナケーブルを接続する



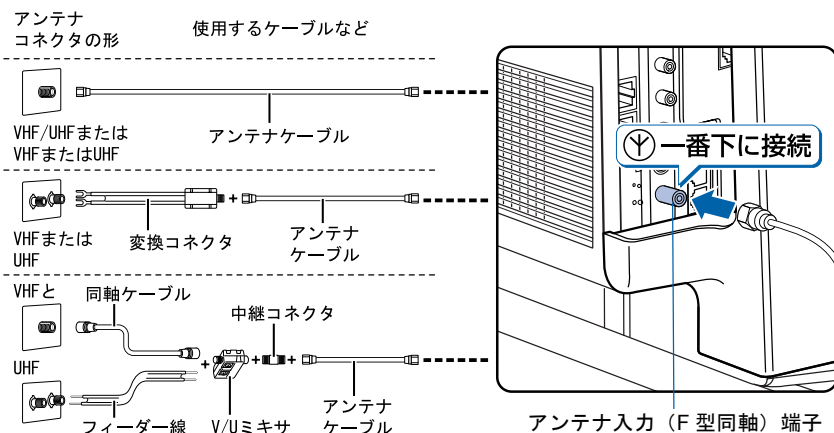
- ・近くで落雷のおそれがある場合は、すべての接続作業を中止してください。落雷による感電のおそれがあります。

1. パソコンの電源が入っている場合は、電源を切ります。
2. パソコン本体左側面のカバーを取り外します。



3. アンテナケーブルをパソコン本体に接続します。

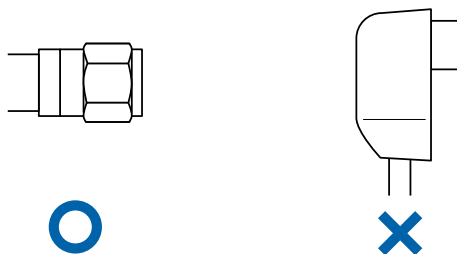
接続のしかたは、壁のアンテナコネクタの形や、お使いになるケーブルによって異なります。下の図から最も近いものを選択し、必要なケーブル類を接続してください。



重要

ネジ式の F 型コネクタプラグをお使いください

アンテナケーブルとパソコンの接続には、ノイズの影響を受けにくいネジ式の F 型コネクタプラグをお使いください。F 型コネクタプラグの取り付け方については、F 型コネクタプラグのマニュアルをご覧ください。

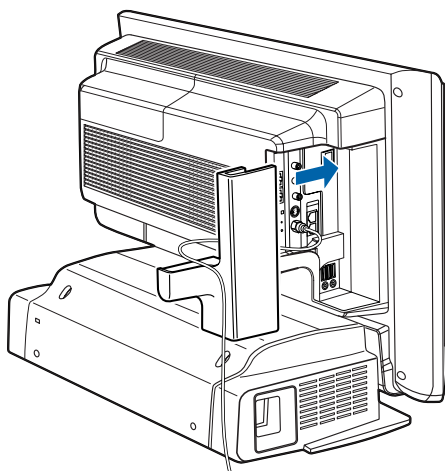


アンテナケーブルを接続するときは


アンテナケーブルを接続するときは、コネクタの中心にある金属芯を折らないよう、注意してください。

4. 手順 2 で外したカバーを取り付け、アンテナケーブルを外に出します。

カバーを取り付ける際、ケーブルをはさまないようにしてください。



チャンネルを設定する

アンテナケーブルの接続が完了したら、テレビのチャンネルを設定します。
チャンネル設定の方法については、 (サービスアシスタント) のトップ画面→「FMV の使い方」→「テレビ」→「チャンネルを設定する」をご覧ください。

なお、「FMV の使い方」には、パソコンでテレビを見たり、番組の録画をしたりする方法や、リモコンの各ボタンの名称と働きなども紹介されています。

テレビを見るとき注意

テレビを見るときには、次の点にご注意ください。

- ・ ご使用中は画面のプロパティの設定を変更しないでください。
- ・ メディアプレーヤーなど、他のアプリケーションと同時に使用しないでください。

Memo

6

第 6 章 付 録

1 仕様一覧	98
--------------	----

1 仕様一覧

パソコン本体

製品名称	FMV-DESKPOWER L70G/F	FMV-DESKPOWER L70G	FMV-DESKPOWER L50G
CPU	インテル® Pentium® 4 プロセッサ 2.80CGHz 注1		インテル® Celeron® プロセッサ 2.40GHz
キャッシュメモリ	1次: 12K μ Ops 実行トレース+ 8KB データ、 2次: 512KB (CPU 内蔵)		1次: 12K μ Ops 実行トレース+ 8KB データ、2次: 128KB (CPU 内蔵)
チップセット	インテル® 865GV チップセット		
システム・バス	800MHz		400MHz
メインメモリ注2	標準 512MB (PC2700 デュアル チャンネル DDR SDRAM DIMM) ECC なし注3 最大 1GB 注4	標準 256MB (PC2700 DDR SDRAM DIMM) ECC なし注3 最大 1GB 注4	
メモリスロット	× 2 (空きスロットなし)		× 2 (空きスロット× 1) 注5
表示機能	グラフィックアクセラレータ	チップセットに内蔵	
	ビデオメモリ	最大 64MB (メインメモリと共用) 注6	
	液晶ディスプレイ注7	17型ワイドデジタル液晶	
	解像度/発色数	最大 1280 × 768 ドット/最大 1677 万色注8	
フロッピーディスクドライブ注9	FDD ユニット (USB) (別売)		
ハードディスクドライブ注10	160GB (Ultra ATA/100) 注11	160GB (Ultra ATA/100)	
CD/DVD ドライブ	スーパーマルチドライブ注12		
オーディオ機能	オーディオコントローラ	チップセット内蔵 + AC97 コードック	
	PCM 録音再生機能	サンプリング周波数 最大 48kHz、16 ビットステレオ、同時録音再生対応	
	MIDI 再生機能	OS 標準機能にてサポート	
通信機能	モデム	データ: 最大 56kbps (V.90 規格準拠) 注13 / FAX: 最大 14.4kbps	
	LAN	—	100BASE-TX/10BASE-T 準拠
	ワイヤレス LAN	IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠アクセスポイント	—
ホームサーバー機能	内蔵		—
テレビ機能	テレビチューナー	受信チャンネル注14: VHF (1 ~ 12ch)、UHF (13 ~ 62ch)、CATV (C13 ~ C63ch) ステレオ、音声多重対応	
	録画形式	MPEG2 (ハードエンコード) 注15	
	高画質化機能	3次元 Y/C 分離、 ゴーストリダクション	—

注記については、「仕様一覧の注記について」(●▶P.102)をご覧ください。

製品名称		FMV-DESKPOWER L70G/F	FMV-DESKPOWER L70G	FMV-DESKPOWER L50G
インターフェイス	PCカード	PC Card Standard 準拠 Type I / II × 2 スロット または Type III × 1 スロット (CardBus 対応)		
	SDカード/メモリースティック ^{注16}	× 1 スロット		
	USB ^{注17}	USB2.0 準拠 × 4 (左側面 × 3、右側面 × 1)		
	IEEE1394 (DV)	4 ピン × 1 (S400)		
	モデム	RJ-11 × 2 (LINE × 1、PHONE × 1)		
	LAN	RJ45 × 2 (WAN × 1、LAN × 1)	RJ-45 × 1	
	テレビ	アンテナ入力 (F 型同軸) × 1、 ビデオ入力 (S ビデオ × 1、コンポジット × 1)、 ビデオ音声入力 (右 / 左) × 1		
オーディオ	マイク：φ3.5mm ミニジャック (入力：100mV 以下、入力インピーダンス (AC) 10kΩ 以上 (DC) 2kΩ 以上)、ヘッドホン：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック (出力：1mW 以上、負荷インピーダンス 32Ω)、光デジタルオーディオ出力：丸形：光ミニジャック、ラインイン：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック、ラインアウト：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック			
電源/周波数		AC100V 50/60Hz		
消費電力	電源 OFF 時 ^{注19}	13W 以下	7W 以下	
	動作時	通常約 103W 最大 210W スタンバイ時約 18W ^{注20}	通常約 99W 最大 210W スタンバイ時約 9W	通常約 90W 最大 210W スタンバイ時約 9W
省エネ法に基づくエネルギー消費効率 ^{注21}		Q 区分 0.0024	Q 区分 0.0011	Q 区分 0.0014
外形寸法		W492 × D233.2 × H366.8mm (突起部含まず)		
質量		約 15kg	約 14.5kg	
盗難防止用ロック		あり		
温湿度条件		温度 10 ~ 35 °C / 湿度 20 ~ 80%RH (動作時)、温度 -10 ~ 60 °C / 湿度 20 ~ 90%RH (非動作時) (ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと)		
プレインストール OS		Windows XP Home Edition ^{注22} (DirectX:9.0b 対応)		
サポート OS		Windows XP Home Edition ^{注23} 、Windows XP Professional ^{注23 注24}		

注記については、「仕様一覧の注記について」(●▶P.102)をご覧ください。

製品名称		FMV-DESKPOWER L70GN	FMV-DESKPOWER L50GN
CPU		インテル® Pentium® 4 プロセッサ 2.80CGHz 注1	インテル® Celeron® プロセッサ 2.40GHz
キャッシュメモリ		1次: 12Kμ Ops 実行トレース+ 8KB データ、 2次: 512KB (CPU 内蔵)	1次: 12Kμ Ops 実行トレース+ 8KB データ、 2次: 128KB (CPU 内蔵)
チップセット		インテル® 865GV チップセット	
システム・バス		800MHz	400MHz
メインメモリ注2★		256MB (PC2700 DDR SDRAM DIMM) ECC なし注3 最大 1GB注4/ 512MB (PC2700 デュアルチャネル DDR SDRAM DIMM) ECC なし注3 最大 1GB注4/ 1GB (PC2700 デュアルチャネル DDR SDRAM DIMM) ECC なし注3 最大 1GB注4	
メモリスロット		× 2 (空きスロットなし:512MB/1GB モデル) / × 2 (空きスロット× 1:256MB モデル) 注5	
表示機能	グラフィック アクセラレータ	チップセットに内蔵	
	ビデオメモリ	最大 64MB (メインメモリと共用) 注6	
	液晶ディスプレイ注7	17 型ワイドデジタル液晶	
	解像度/発色数	最大 1280 × 768 ドット/最大 1677 万色注8	
フロッピーディスク ドライブ注9		FDD ユニット (USB) (別売)	
ハードディスク ドライブ注10★		160GB / 200GB (Ultra ATA/100)	
CD/DVD ドライブ		スーパーマルチドライブ注12	
オーディオ機能	オーディオコント ローラ	チップセット内蔵+ AC97 コーデック	
	PCM 録音再生機能	サンプリング周波数 最大 48kHz、16 ビットステレオ、同時録音再生対応	
	MIDI 再生機能	OS 標準機能にてサポート	
通信機能	モデム	データ: 最大 56kbps (V.90 規格準拠) 注13 / FAX: 最大 14.4kbps	
	LAN	100BASE-TX/10BASE-T 準拠	
テレビ機能	テレビチューナー	受信チャンネル注14: VHF (1~12ch)、UHF (13~62ch)、CATV (C13~C63ch) ステレオ、音声多重対応	
	録画形式	MPEG2 (ハードエンコード) 注15	
	高画質化機能	3次元 Y/C 分離、ゴーストリダクション	
インターフェース	PC カード	PC Card Standard 準拠 Type I / II × 2 スロット または Type III × 1 スロット (CardBus 対応)	
	SD カード/メモリー スティック注16	× 1 スロット	
	USB注17	USB2.0 準拠 × 4 (左側面 × 3、右側面 × 1)	
	IEEE1394 (DV)	4 ピン × 1 (S400)	
	モデム	RJ-11 × 2 (LINE × 1、PHONE × 1)	
	LAN	RJ-45 × 1	
	テレビ	MPEG2 (ハードエンコード): アンテナ入力 (F 型同軸) × 1、ビデオ入力 (S ビデオ × 1、コンポジット × 1)、ビデオ音声入力 (右/左) × 1 / MPEG2 (ソフトエンコード): アンテナ入力 (F 型同軸) × 1、ビデオ入力 (S ビデオ × 1、コンポジット × 1)	
	オーディオ	マイク: φ3.5mm ミニジャック (入力: 100mV 以下、入力インピーダンス (AC) 10kΩ 以上 (DC) 2kΩ 以上)、ヘッドホン: φ3.5mm ステレオ・ミニジャック (出力: 1mW 以上、負荷インピーダンス 32Ω)、 光デジタルオーディオ出力: 丸形: 光ミニジャック、ラインイン: φ3.5mm ステレオ・ミニジャック、 ラインアウト: φ3.5mm ステレオ・ミニジャック	
電源/周波数		AC100V 50/60Hz	
消費電力注18	電源 OFF 時注19	7W 以下	
	動作時	通常約 99W 最大 210W スタンバイ時約 9W	通常約 90W 最大 210W スタンバイ時約 9W
省エネ法に基づくエネルギー消費効率注21		Q 区分 0.0011	Q 区分 0.0014
外形寸法		W492 × D233.2 × H366.8mm (突起部含まず)	



★ ご購入時に選択したものをご覧ください。

注記については、「仕様一覧の注記について」(●▶P.102) をご覧ください。

製品名称	FMV-DESKPOWER L70GN	FMV-DESKPOWER L50GN
質量	約 14.5kg	
盗難防止用ロック	あり	
温湿度条件	温度 10～35℃/湿度 20～80%RH（動作時）、温度 -10～60℃/湿度 20～90%RH（非動作時） （ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）	
プレインストール OS	Windows XP Home Edition 注22（DirectX:9.0b 対応）	
サポート OS	Windows XP Home Edition 注23、Windows XP Professional 注23 注24	

★ ご購入時に選択したものをご覧ください。
注記については、「仕様一覧の注記について」（●▶P.102）をご覧ください。

仕様一覧の注記について

- 注 1 : ご購入時のハイパー・スレディング・テクノロジー設定は、有効になっています。
アプリケーションソフトや周辺機器を追加される場合は、ハイパー・スレディング・テクノロジーに対応しているか、販売元にご確認ください。
- 注 2 : ビデオメモリと共有しているため、「コントロールパネル」の「パフォーマンスとメンテナンス」の「システム」では、搭載メモリサイズより少なく表示されます。
ビデオメモリの使用量は、Intel® Dynamic Video Memory Technology (DVMT) により、パソコンの動作状況によって自動的に変化します。
- 注 3 : メモリについては、L70G/F、L70G、L70GN の場合は 320MHz、L50G、L50GN の場合は 266MHz の周波数で動作します。
- 注 4 : メインメモリの最大容量は拡張 RAM モジュール 512MB を 2 枚搭載した場合です。また、デュアルチャネルで動作させるには当社指定の純正オプションが必要です。
- 注 5 : 当社指定の純正オプションを追加することにより、デュアルチャネルで動作させることができます。
- 注 6 : Intel® Dynamic Video Memory Technology (DVMT) を使用しているため、パソコンの動作状況により、メモリ容量が自動的に変化します。
- 注 7 : 液晶ディスプレイの特性について
- ・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります。これらは故障ではありません。交換・返品はお受けいたしかねますのであらかじめご了承ください。
 - ・本製品で使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
 - ・長時間同じ表示を続けると残像となることがありますが、故障ではありません。残像は、しばらく経つと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
 - ・表示する条件によっては、むらおよび微小な斑点が目立つことがありますが、故障ではありません。
- 注 8 : グラフィックアクセラレータの出力する最大発色数は 1677 万色ですが、液晶ディスプレイではディザリング機能によって、擬似的に表現されます。
- 注 9 : ・このパソコンにはフロッピーディスクドライブは内蔵されていません。オプション品の FDD ユニット (USB) (FMFD-51S) を、お買い求めの上、お使いください。
なお、FDD ユニットの接続と取り外しは、必ず電源を切った状態で行ってください。
・FDD ユニット (USB) (FMFD-51S) を接続すると、デスクトップの  (マイコンピュータ) 内にドライブが表示され、フロッピーディスクドライブとして使うことができます。
・FDD ユニット (USB) (FMFD-51S) では、次のフロッピーディスクは使用できません。
 - ・OASYS 文書フロッピー
 - ・640KB でフォーマットしたフロッピーディスク
- ・FDD ユニット (USB) (FMFD-51S) では、次のフロッピーディスクは、データの読み書きはできますが、フォーマットはできません。
 - ・1.25MB でフォーマットしたフロッピーディスク
 - ・1.23MB でフォーマットしたフロッピーディスク
 - ・720KB でフォーマットしたフロッピーディスク
- 注 10 : このマニュアルに記載のディスク容量は、1MB=1000²byte、1GB=1000³byte 換算によるものです。
Windows 上で 1MB=1024²byte、1GB=1024³byte 換算で表示される容量は、このマニュアルに記載のディスク容量より少なくなります。
- 注 11 : このうち 20GB をホームサーバー機能に使用しています。
- 注 12 : ドライブの主な仕様は次の通りです。
- | | |
|-------------|--|
| スーパーマルチドライブ | CD-ROM/CD-R 読出：最大 32 倍速、CD-RW 読出：最大 24 倍速、DVD-RAM 読出：最大 3 倍速 (4.7/9.4GB)、最大 2 倍速 (2.6/5.2GB)、DVD-ROM 読出：最大 12 倍速、DVD-R 読出：最大 8 倍速、DVD-RW 読出：最大 8 倍速、DVD+R 読出：最大 8 倍速、DVD+RW、読出：最大 8 倍速、CD-R 書込：最大 24 倍速、CD-RW 書込書換：最大 16 倍速、DVD-RAM 書込：最大 3 倍速 (4.7/9.4GB)、DVD-R 書込：最大 4 倍速、DVD-RW 書込書換：最大 2 倍速、DVD+R 書込：最大 4 倍速、DVD+RW 書込書換：最大 2.4 倍速 |
|-------------|--|
- 注 13 : 56000bps は、V.90 の理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線の状況により変化します。
詳しくは、 (サービスアシスタント) のトップ画面 → 「FMV の使い方」 → 「基本機能」 → 「内蔵モデムについて」をご覧ください。
- 注 14 : BS/CS 放送のチャンネルは受信できません。
- 注 15 : ・テレビ番組の録画などは、お客様個人またはご家庭で楽しむ目的でのみ、ご利用ください。
・ビデオなどから録画する場合、コピーガード信号を含んだ映像の表示・録画はできません。
また、ビデオ入力 (S ビデオ) 端子やビデオ入力 (コンポジット) 端子に接続した一部のビデオ機器では、メニューや操作画面においてコピーガード信号を出しています。この場合、ディスプレイへの表示はできません。テレビや他のディスプレイなどに接続してお使いください。
- 注 16 : SD メモリーカードとメモリスティックの同時使用はできません。
マジックゲートなどの著作権保護機能には対応していません。
マルチメディアカード (MMC) には対応していません。
- 注 17 : すべての USB 対応周辺機器について動作するものではありません。
- 注 18 : カスタムメイドの構成によって、消費電力は異なります。

- 注 19：電源 OFF 時の電力消費を回避するには、パソコンの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 注 20：ホームサーバー機能停止時
- 注 21：エネルギー消費効率とは省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。
- 注 22：出荷時に、Service Pack1a が適用されています。
- 注 23：Service Pack1a が適用されている必要があります。
- 注 24：他の OS をお使いになるときは、FMV 活用サイト AzbyClub（アズビィクラブ）ホームページ（<http://azby.fmworld.net/>）をご覧ください。

液晶ディスプレイ

表示方式	TFT
サイズ	17 型ワイド
最大解像度	1280 × 768 ドット
最大発色数	1619 万色

6

内蔵スピーカー

方式	トランソニックスピーカー
スピーカーユニット	口径：30 (mm) インピーダンス 3.5 Ω
定格 (最大) 入力	2W/ch
音圧レベル	78dB/W (m)
再生周波数	175Hz ~ 20kHz

LAN 機能（L70G、L50G、L70GN、L50GN をお使いの方）

LAN コントローラ	Intel ICH5 内蔵 + 82562EZ
送受信バッファ用 RAM	送受信 各 3kbyte
外部インターフェース	ISO8802-3 100BASE-TX/10BASE-T
伝送媒体	ツイストペアケーブル ^{注1} (100Mbps : カテゴリ 5、10Mbps : カテゴリ 3 ~ 5)
伝送方式	ベースバンド
アクセス方式	CSMA/CD
データ転送速度	100Mbps、10Mbps
配線形態	スター型
セグメント最大長	100m
最大ノード数/セグメント	ハブユニット ^{注2} による

注1 : ネットワークを 100Mbps で確実に動作させるには、非シールド・ツイスト・ペア (UTP) カテゴリ 5 またはそれ以上のデータ・グレードのケーブルをお使いください。カテゴリ 3 のケーブルを使うと、データ紛失が発生します。

注2 : ハブユニットとは、100BASE-TX/10BASE-T のコンセントレータです。

POINT

ネットワークのスピードについて

LAN はネットワークのスピードに自動で対応します。ハブユニットの変更などでネットワークのスピードが変更される場合、スピードに対応した適切なデータグレードのケーブルを必ずお使いください。

ホームサーバー機能（L70G/F をお使いの方）

WAN 側 / LAN 側	100BASE-TX/10BASE-T 準拠
ワイヤレス LAN アクセスポイント	IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠 × 1
ワイヤレス LAN アンテナ	内蔵
ファミリーネットワークウェア	プレインストール

高画質ハードエンコーダ付き TV チューナーカード / ハードエンコーダ付き TV チューナーカード

割り込み (IRQ)	PCI システムによる自動設定
メモリマッピング	PCI システムによる自動設定
NTSC 入力仕様	NTSC コンポジット : 1V p-p 75Ω S ビデオ : 1V p-p 75Ω
コネクタ	ビデオ音声入力端子 (右) ・RCA ピンジャック×1 ビデオ音声入力端子 (左) ・RCA ピンジャック×1 ビデオ入力 (コンポジット) 端子・RCA ピンジャック×1 ビデオ入力 (S ビデオ) 端子・ミニ DIN4 ピンジャック×1 アンテナ入力 (F 型同軸) 端子・F 型コネクタ×1
TV 音声仕様	ステレオ、音声多重対応
RF 入力端子	75Ω F 型コネクタ

6

リモコン

通信方式	赤外線方式	
使用可能距離	3m	
乾電池の寿命の目安	約 6ヶ月 (マンガン乾電池使用時)	
使用可能範囲	水平	約 30°
	垂直	上 : 約 10° / 下 : 約 40°
使用電池	単 3 形乾電池 2 本	

Memo

この本で見つからない情報は、画面で検索しよう！



(サービスアシスタント)のトップ画面 →

検索

キーワードを選ぶ

索引

A

Access ランプ	16
Application ボタン	20

B

Backup ボタン	20
------------	----

C

Caps Lock 表示ランプ	16
CD/DVD 操作ボタン	20
CD 取り出しボタン	18

E

E-mail ボタン	20
------------	----

F

FMV の使い方	69
----------	----

I

ID 設定値	81
IEEE1394 (DV) 端子	18
Internet ボタン	20

L

LAN コネクタ	17
LINE 端子	17

M

Menu ボタン	20
Mute (消音) ボタン	20
MyMedia を使う	89

N

Num Lock 表示ランプ	16
----------------	----

O

Online ランプ	16
------------	----

P

PC カードスロット	18
PC カード取り出しボタン	18
PHONE 端子	17

R

RECOVERY ボタン	17
--------------	----

S

Scroll Lock 表示ランプ	16
SD カード/メモリスティックスロット	18
STATUS ランプ	17
Status ランプ	16
STOP ボタン	17
Support ボタン	20

U

USB コネクタ	17, 18
----------	--------

W

WAN コネクタ	17
Windows	
- 使用許諾契約書	39
- セットアップ	33

あ行

明るさ調節つまみ	18
アプリケーション	
- 使い始める	52
アンテナ入力 (F 型同軸) 端子	17
インレット	17
液晶ディスプレイ	16
音量調節ボタン	20
音量ボリューム	18

か行

カーソル	49
各部名称	15
- パソコン本体前面	16
- パソコン本体背面	19
- ワンタッチボタン	20
乾電池について	79
キーボード	
- ID 設定値	81
- 乾電池	79
- 混信を防ぐ	81
- 準備	28
- 通信周波数	81
キーボード/マウスアンテナ	16
機種名	22
強制終了	57, 61
クリック	38
混信を防ぐ	
- ワイヤレスキーボード	81
- ワイヤレスマウス	81

さ行

サービスアシスタント	45
------------	----

再生／一時停止ボタン	20	ビデオ音声入力端子 (左)	17
周辺機器を取り付ける	68	ビデオ音声入力端子 (右)	17
仕様	98	ビデオ入力 (S ビデオ) 端子	17
- LAN 機能		ビデオ入力 (コンポジット) 端子	17
(L70G、L50G、L70GN、L50GN をお使いの方)	104	品名	22
- 液晶ディスプレイ	103	プリンタ	68
- 高画質ハードエンコーダ付き TV		ヘッドホン端子／光デジタルオーディオ出力端子	18
チューナーカード／ハードエン		保証書	26
コーダ付き TV チューナーカード	105	ボリュームボタン (+)	20
- 内蔵スピーカー	103	ボリュームボタン (-)	20
- パソコン本体	98	ま行	
- ホームサーバー機能	104	マイク端子	18
- ホームサーバー機能		マウス	
(L70G/F をお使いの方)	104	- ID 設定値	81
- リモコン	105	- 乾電池	79
スーパーマルチドライブ	18	- 混信を防ぐ	81
スタンバイボタン	20	- 準備	28
スピーカー	16	- 通信周波数	81
接続する	27	- 持ち方	37
セットアップ	33	前トラックボタン	20
た行		メール着信ランプ	16
チャンネルスイッチ	19	メモリ	68
通信周波数	81	メモリスロット	19
通信の回線	72	モデム	72
通風孔	19	ら行	
次トラックボタン	20	ラインアウト端子	17
停止／取り出しボタン	20	ラインイン端子	17
電源		リモコン受光部	16
- 入れる	53	わ行	
- 切る	53	ワイヤレスキーボード	
- 切れない場合	57, 61	- ID 設定値	81
電源ケーブルの接続	30	- 乾電池	79
電源ボタン	18, 20	- 混信を防ぐ	81
電源ランプ	16	- 通信周波数	81
電話回線		ワイヤレスマウス	
- 種類	50	- ID 設定値	81
- 接続する	73	- 乾電池	79
盗難防止用ロック取り付け穴	19	- 混信を防ぐ	81
トーン	50	- 通信周波数	81
は行		ワンタッチボタン	20
ハードディスク／CD アクセスランプ	16		
初めて電源を入れる	32		
パルス	50		

FMV-DESKPOWER L70G/F,L70G,L50G,L70GN,L50GN

パソコンの準備

B6FH-0641-01-00

発行日 2004年1月

発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。